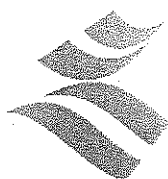


平成29年度
全国学力・学習状況調査
鹿児島県結果分析

市町村別の調査結果



平成29年10月
鹿児島県教育委員会

市町村別の調査結果

正答率分布グラフについて

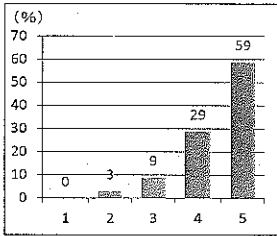
- ※ グラフは、児童生徒の正答率分布グラフです。
- ※ 横軸は、正答率を5段階に分けて示しています。
1 : 0%～20%未満, 2 : 20%～40%未満, 3 : 40%～60%未満,
4 : 60%～80%未満, 5 : 80%～100%
- ※ 縦軸は、各段階の児童生徒数の割合を示しています。
- ※ ただし、正答者数を四捨五入して割合（整数値）としているため、若干の誤差が生じています。

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

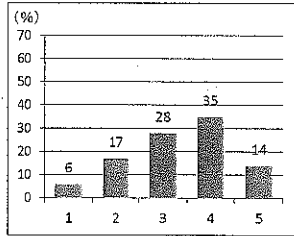
鹿児島市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

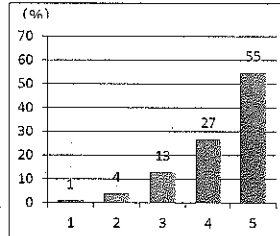


〔国語B〕

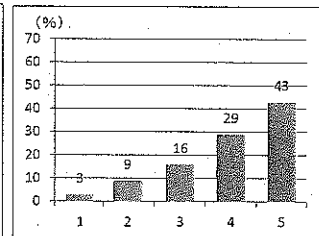


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



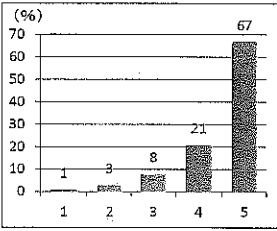
〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られる。A問題の4、5段階は88%、B問題は49%であることから、基礎・基本は定着している状況であるが、活用する力は不十分である。
・話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉えることに課題がある。

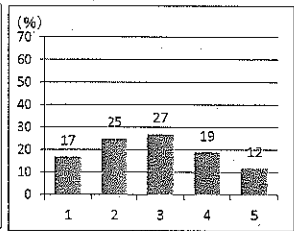
〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られる。A問題の4、5段階は82%、B問題は72%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力はまだ十分とは言えない。
・古典には様々な種類の作品があることを知ることに課題がある。

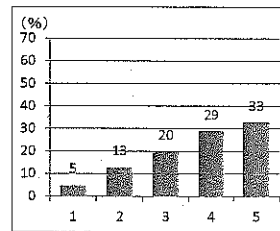
【算数A】



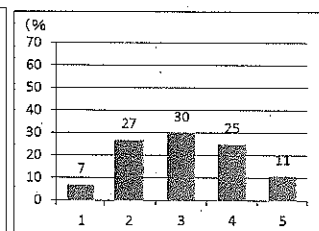
【算数B】



【数学A】



【数学B】



〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られる。A問題の4、5段階は88%であり、基礎・基本は定着しているが、B問題の4、5段階は31%、2、3段階は52%であり、中・下位層の活用する力を伸ばしていくことに課題が見られる。
・整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解することに課題が見られる。
・示された条件を基に、適切な式を立てることに課題が見られる。

〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られる。A問題の1、2段階は18%であり、B問題の1～3段階は64%であることから、基礎・基本及び活用する力とも不十分である。
・与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味をきちんと理解することに課題が見られる。
・図形の性質を考察する場面において、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考え証明することに課題が見られる。

【改善策】

今後、本市の学力向上施策(『確かな学力』の育成)のうち、以下に示す事項について、重点として取り組んでいく。

- 「市中学校かごしま学力向上プログラム」の拠点校・推進校の支援や指導・助言、管理職研修会、教科別研修会等を充実させ、「分かる・できる」授業づくりを通して教職員の指導力向上を図る。
- 全国学力・学習状況調査結果分析を各学校へ情報提供し、授業改善や個に応じた指導の充実を図らせるなど、各学校でPDCAサイクルの充実がなされるよう、見届けまでの指導を確実に進行。
- 全国学力・学習状況調査や「かごしま学力向上支援Webシステム」の問題等を各学校の年間指導計画に位置付けさせるなど、具体的な活用がなされるよう支援や指導・助言を行う。

また、以下の内容を各学校の学力向上策として、特に重点的に取り組むよう指導する。

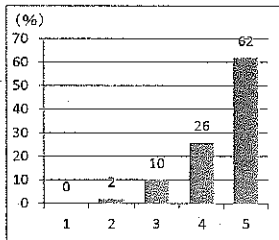
- 〔小学校〕(国語科)
 - ・スピーチメモを活用した話し合い活動の工夫
- (算数科)
 - ・意見を交換しながら、句に込められた季節や風情、思いなどについて考える活動の工夫
 - ・除法の被除数、除数の商の分子、分母の関係を、図や半具体物の操作と関連付けながら理解させる指導の工夫
 - ・児童自らが数量の関係を見いだすことができる問題設定や見いだした数量の関係が、ほかの場合でも成り立つかどうかを確かめるような学習活動の工夫
- 〔中学校〕(国語科)
 - ・古典の原文に加え、現代語訳や解説した文章などを取り上げるなど、古典の世界に積極的に関わられるような工夫
 - ・楷書と行書の違いについて、点や画の方向及び止めや払いの形の変化や、点画の連続や省略、筆順の変化などを意識しながら書く活動の工夫
- (数学科)
 - ・一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて考えさせる学習活動の工夫
 - ・証明の必要性と意味及びその方法について理解させる指導の工夫
- 〔全体〕
 - ・「まとめ」に対応し、児童生徒に主体的な問題解決を促す学習課題(学習問題)の設定
 - ・「思考・判断を促す発問」、「自分の考えを相互に説明する活動」、「思考過程が分かる構造的な板書」を関連付けた指導の工夫による思考力・判断力・表現力等の育成
 - ・調べたり文章を書いたりするなどの「宿題」(家庭学習)の充実(特に言語活動の充実を図るための家庭学習の工夫)
 - ・他者の話を聞く態度など学習態度の育成(学校と家庭での習慣付け)

【別紙様式】

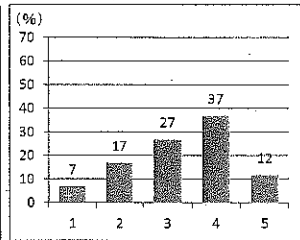
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

日置市教育委員会

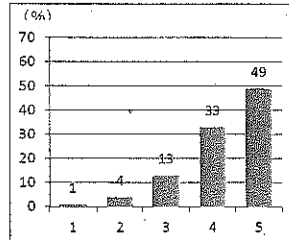
【小学校】
〔国語A〕



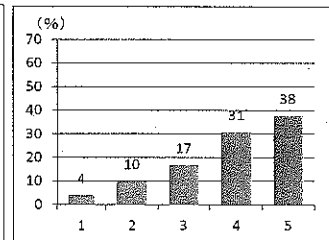
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



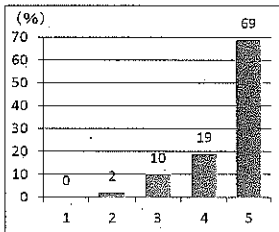
〈課題〉

・5段階の分布状況について、国語Aにおいては4・5段階の割合が高く、基礎的・基本的事項について指導の充実が図られていることが分かる。しかし、国語Bにおいては、1・2段階の割合が高くバラつきがあり、個人差が大きい傾向が見られる。
・特に、目的や意図に応じて文章全体の構成を考えることに課題が見られる。

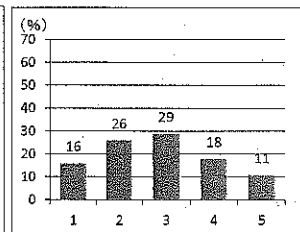
〈課題〉

・5段階の分布状況について、国語Aにおいて4・5の段階の割合が高いが、1～3段階の分布も見られる。国語Bにおいては、バラつきが見られるので、個人差に対応した指導による底上げが必要である。
・特に、表現の仕方について捉え、自分の考えを書いたり、話の論理的な構成や展開などに注目して聞いたりすることに課題が見られる。

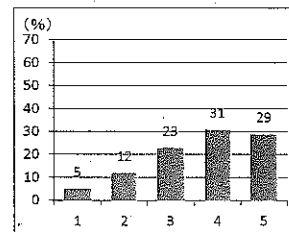
〔算数A〕



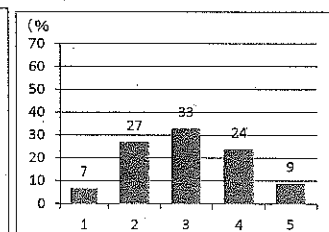
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題の5段階の割合が高いことから基礎的・基本的事項は身に付いているが、B問題では1, 2段階の割合が高く、個人差が大きい傾向があり、活用力に課題が見られる。
・特に、仮の平均の考えを活用して測定値の平均の求め方を記述したり、示された条件を基に適切な式を立てたりすることに課題が見られる。

〈課題〉

・5段階の分布状況については、数学A・Bともに1～3段階への分布も見られることから、定着の不十分な生徒へのきめ細かな指導が必要である。数学Bは下位層の割合が高く、上位層の割合が低いことから、上位層の伸び悩みの傾向が見られる。
・特に、証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだしたり、資料の傾向を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
○「のびおきっ子Ⅱ」で、学びの系統性・連続性を重視した指導法改善、児童生徒が課題解決に向けて主体的に学びを深めていくための授業づくり、家庭や地域と連携した読書活動の推進などに取り組んでいく。

また、以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕

(国語科)

・漢字やことわざ等の基礎的・基本的な内容についての定期的な繰り返し指導や、日常的に活用できる場を意図的に設定するなどした確実な定着を図る指導の充実

・目的や意図に応じて文章全体の構成を考えたり、自分の考えをまとめて書いたり、学び合いにより互いの意見を聞き合ったりする授業の充実

(算数科)

・基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導の充実

・見通しをもち、筋道を立てて問題を解決したり振り返ったりする学習活動の充実

・学んだ知識やきまりを使って、他の問題に適応し解決していく学習活動の充実

〔中学校〕

(国語科)

・表現の仕方について捉え、自分の考えを書いたり、話の論理的な構成や展開などに注目して聞いたりする学習活動の充実

・本や文章から必要な情報を読み取ったり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする学習活動の充実

(数学科)

・証明した事柄を用いて、新たな性質を見だし、資料の傾向を数学的な表現を用いて説明する学習指導の充実

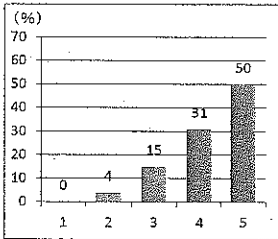
・自然数の意味理解など基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る個に応じたきめ細かな指導の充実

【別紙様式】

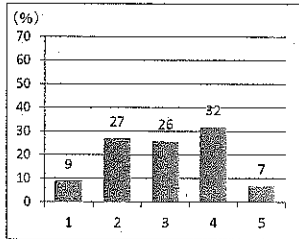
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

いちき串木野市教育委員会

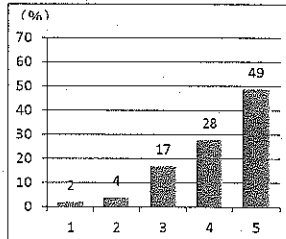
【小学校】
〔国語A〕



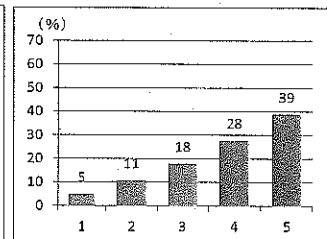
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



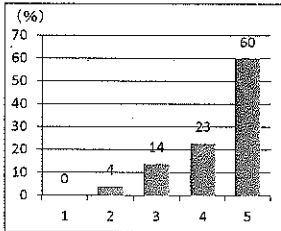
〈課題〉

・5段階の分布状況について、4, 5段階はA問題は81%であるが、B問題では39%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それらをもとに活用する力に付いては、定着が十分ではない。
・目的や内容に応じて必要な材料を整理すること、構成を工夫して書いたり話したりすること、発言の意図を考えながら聞くことに課題がある。また、手紙の書き方等の基本的な事項の定着が不十分である。

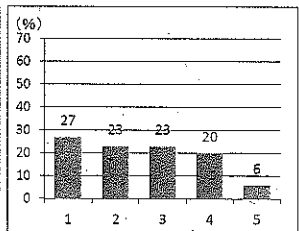
〈課題〉

・5段階の分布状況について、4, 5段階がA問題は77%、B問題は67%と、基礎・基本とともに活用する力も一定の定着が図られている。
・相手に分かりやすい語句の選択、事象や行為を表す多様な語句の理解等、語彙の定着が不十分である。また、表現の工夫を捉え、自分の考えを書く力に課題がある。

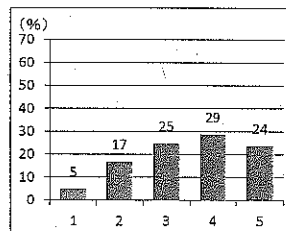
〔算数A〕



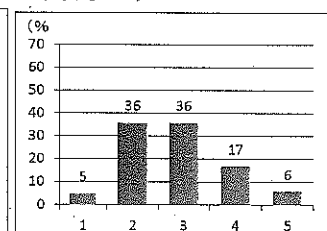
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題は4, 5段階が83%であり、基礎・基本は身に付いている。しかし、B問題では1段階が27%と最も多く、段階が上がるにつれて、正答率が下がっており、活用の力が身に付いていないと言える。
・二つの数量の関係の一般化、資料からの必要な数値の選択、法則を見いだすこととその説明・適用、平均の定義や求め方、割合の意味や比較等、活用に関する課題が多い。

〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題は4段階がピークであるが、1~3段階が47%と基礎・基本の十分な定着が図られているとは言えない。また、B問題は、2, 3段階で72%を占めており、活用の力が身に付いていない。
・図形の性質や2つの図形の関係性を見いだすこと、関数の意味、筋道を立てた証明、事象を数学的に解釈し的確に説明したり表現したりすること等に課題が多い。

【改善策】

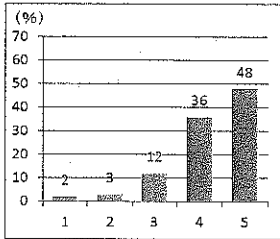
- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上策の重点として取り組んでいく。
- 〔全体〕(各教科)・ 追究する課題を明らかにして、児童生徒が主体的・意欲的に判断・表現する授業の実践に努める。
・ 個別の課題追究の時間の確保や、個別の補充学習等、個に応じた指導の充実を図る。
- 〔小学校〕(国語科)・ 目的や内容に応じて伝える内容や方法を工夫して発表したり、観点に沿った質問や意見交換をしたりする活動の充実
・ 話し手や書き手の意図を考え、問われていることに対して適切に答える活動の充実
(算数科)・ 加減乗除の手順や式の意味等と考え説明する活動の充実
・ 事象を数学的に処理したり、図形や式・数値の特徴を踏まえて根拠をもとに説明したりする学習の充実
- 〔中学校〕(国語科)・ 多様な語句や文章表現に触れ、それらを自己表現に活用する学習の充実
・ 問われていることに対応する箇所を読み取り、文章で適切に伝える学習の充実
(数学科)・ 証明したり根拠を基に説明したりするための、基礎的事項の確実な定着を図る指導の充実
・ 証明、事象を数学的に解釈し、必要な情報を取捨選択して、見通しを立てて証明する活動の充実

【別紙様式】

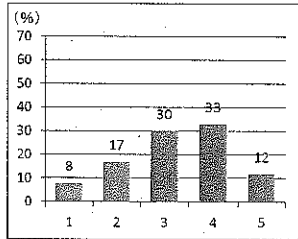
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

枕崎市教育委員会

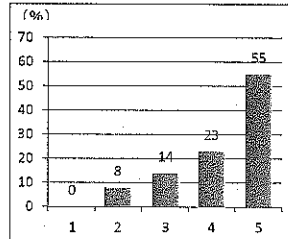
【小学校】
〔国語A〕



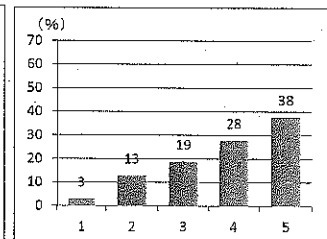
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



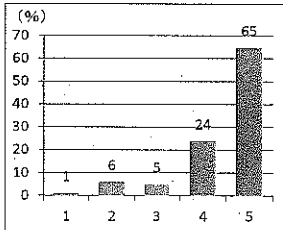
〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題の1～3段階は17%であるが、B問題では55%である。また、A問題の上位層の割合に対して、B問題の割合が低い。中・上位層を伸ばしていくことが必要である。
・目的や意図に応じ、引用して書いたり、必要な内容を整理して書いたりすることに課題がある。
・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることに課題がある。また、無解答率も高い。

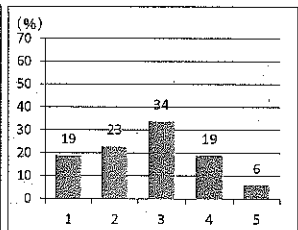
〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は78%であるが、B問題では66%である。また、B問題では下位層の割合も高い。低・中位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・目的に応じて資料を効果的に活用することや必要な情報を集めた情報を整理し文章を構成したり、集めるための見通しを持つたりすることに課題がある。

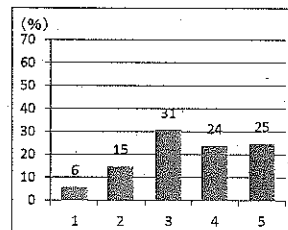
〔算数A〕



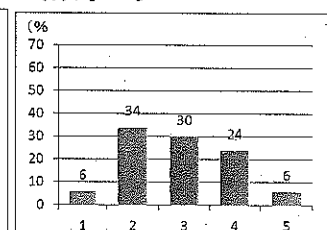
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の状況については、A問題の4、5段階は89%であるが、B問題では25%である。特に中位層の活用する力を伸ばしていくことが必要である。
・図形や数量関係の領域において、示された図、資料を解釈し、必要な数値を選び、その求め方と答えを記述したり、判断の理由を記述したりすることに課題がある。

〈課題〉

・5段階の状況については、A問題の低・中位層の割合が52%と高い。基礎・基本の定着を図ることが必要である。また、B問題でも同様の傾向があることから、低・中位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・正の数と負の数の計算や一元一次方程式を解くことなど数学的な技能の正答率が低く、無解答率も高い傾向がある。
・筋道を立てて考え、証明する問題の無解答率が高い。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 分析の視点(経年変化、質問紙結果との相関など)を各学校に示し、課題の焦点化を図らせる。
 - 諸学力検査結果を小・中学校間で情報を共有させ、小中連携した改善策を講じさせる。
 - 効果的な宿題の在り方について教職員に対して共通理解させ、家庭学習の充実を図らせる。
 - 定着が不十分であった問題については、補充指導を徹底させたり、指導計画の見直しをしたりするなどの指導を行う。
 - 拠点校における「授業サポートプロジェクト」や校内研究授業に、本市の指導主事が参加し、継続的な授業づくりの支援や指導・助言を行う。

また、以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科)目的に応じて引用して書いたり、必要な内容を整理して書いたりできるような活動を積極的に取り組むように助言する指導を行う。
(算数科)図や資料から得られた情報を整理し、根拠を示しながら説明したり、判断の理由を書かせたりする学習を充実させる。

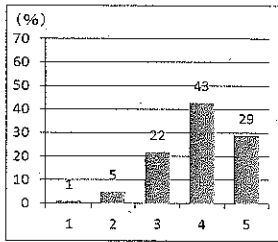
〔中学校〕(国語科)目的に応じて資料を効果的に活用したり、情報を整理し文章を構成したりできるような学習活動が充実できるように指導を行う。
(数学科)基礎的・基本的な内容を確実に理解させることと既習事項を基に筋道を立てて説明する活動に積極的に取り組むよう指導を行う。

【別紙様式】

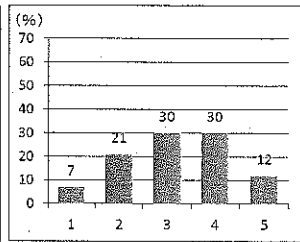
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

指宿市教育委員会

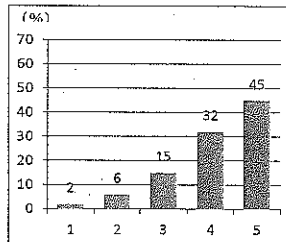
【小学校】
〔国語A〕



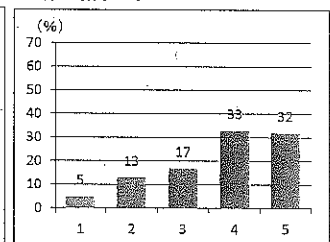
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



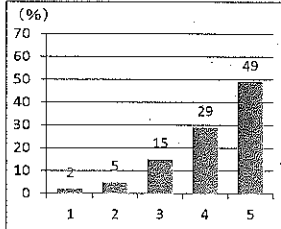
〈課題〉

- ・A問題は、4・5段階の割合が72%であるが、5段階の割合が少なく、中位層を伸ばしていく必要がある。また、B問題は、4、5段階の割合が41%であることから、知識は身に付きつつあるが、知識を活用する力が十分ではない。
- ・特に、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめて記述することに課題がある。

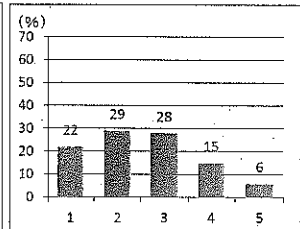
〈課題〉

- ・A問題は、4、5段階の割合が77%であるが、B問題は、64%であり、上位層が減り下位層が増えている。このことから、活用する力を付けていくことが課題である。
- ・特に、文章表現の仕方について、自分の考えを具体的に書いたり、様々な情報の中から必要な情報を収集し、根拠を基にして記述したりすることに課題がある。

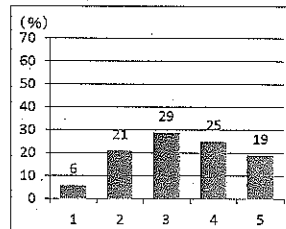
〔算数A〕



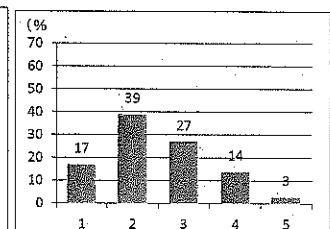
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・A問題は、4、5段階の割合が77%であるが、B問題は21%となっており、活用力の向上が課題となっている。
- ・特に、示された考えや説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述することや、身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することなどが苦手である。

〈課題〉

- ・4、5段階はA問題の割合が44%、B問題は16%となっており、知識・活用ともに定着が課題となっている。また、B問題は1、2段階が5割を超えるなど、下位層が多い。基礎・基本の定着を重視するとともに、活用力を高める必要がある。
- ・数量や図形の基礎的な数学的事象の意味理解に課題がある。
- ・特に、問題解決の方法を数学的に説明したり、数学的な表現を用いて説明する問題については、無解答率が高い。

【改善策】

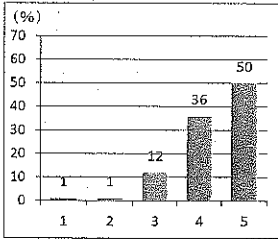
- 結果分析及び具体的な改善策について全職員で行い、共通理解・共通実践するように管理職研修会等で各学校に指導する。
 - 小問分析を通して把握した課題について、各学校に12月及び3月までに達成すべき目標を設定させ、アクションプランとしてまとめ、取り組ませる。
 - 各学校に「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用を十分図らせるとともに、取組状況について確認及び指導を徹底する。
 - 指宿市授業力向上事業（ITPいぶすきたまばこプロジェクト）による「子供ができる・分かる授業づくり」の推進を図る。
 - 「いぶすき授業力向上リーフレット」「学びの羅針盤」を積極的な指導主事派遣を通して、校内研修会等で積極的に活用する。
- また、以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科)目的や意図に応じて、自分の考えを文章にまとめたり、まとめたことをペアやグループ・全体で発表したりする活動を積極的に取り入れる。
 - (算数科)日常生活の場面から問題を取り上げ、数理的に捉えて解決する学習を積極的に取り入れる。
 - 〔中学校〕(国語科)目的や意図に応じて必要な情報を収集し、根拠を明確にして自分の考えを記述し、説明し合う学習を積極的に取り入れる。
 - (数学科)数量や図形の基礎・基本を習得させるために、数学的に説明するなど表現する活動を積極的に取り入れる。

【別紙様式】

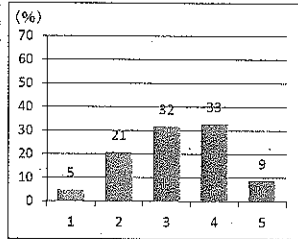
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南さつま市教育委員会

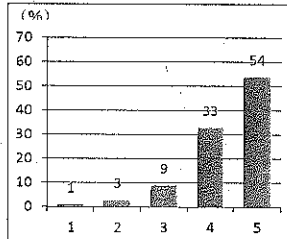
【小学校】
〔国語A〕



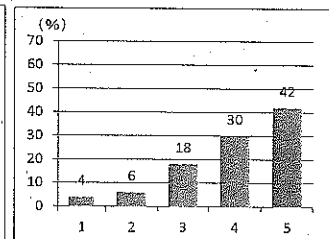
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



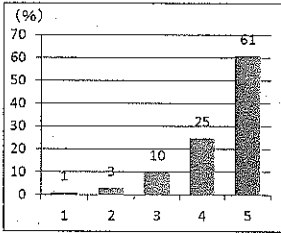
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は86%であるが、B問題では42%と半減していることから、活用する力が十分でないことが分かる。特にB問題の5段階は9%しかない。上位層をさらに伸ばしていく必要がある。
・目的や意図に応じて、文章全体の意図を考えることに課題が見られる。

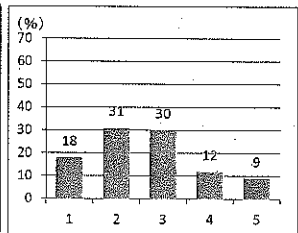
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は87%で、B問題は72%である。B問題では、A問題の上位層が、3段階へと落ち込んでいる。上位層を対象とした、活用力の向上を図る指導が必要である。
・適切な敬語の使い方に課題がある。
・相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことに課題がある。

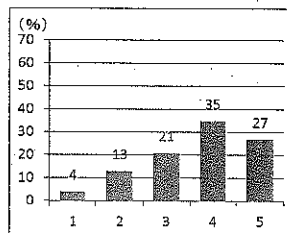
〔算数A〕



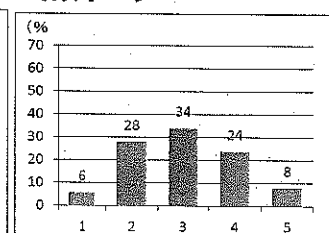
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階の児童が、A問題では86%いるのに対し、B問題では21%に大きく減っている。基礎・基本は身に付いているが、活用力が十分に育成されていないことが分かる。
・問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述することに課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では分布のピークが4段階にあるのに対し、B問題では3段階にある。活用する力を全体的に伸ばしていく必要がある。
・筋道立てて考え、証明することに課題がある。
・数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
○各学校における課題の分析の仕方を指導し、課題の焦点化させる。また、課題解決へ向けた取組を年間指導計画に位置付け、各学校で見直しを持ちながら確実に実践する体制を整える。
○学校訪問や校内研修、本市の学力向上推進委員会等の機会を通して、「主体的・対話的で深い学び」について、「ねらいを明確にした対話活動の在り方」や「学校種間・学年間の系統性を意識した学びの充実」など授業改善の視点を具体的に指導し、教員の指導力向上を図る。
○土曜授業の「学びを深める日」や朝の活動等の時間に「かごしま学力向上支援Webシステム」の単元別評価問題を活用し、理解が不十分な問題や発展的な問題への計画的な取組を指導していく。また、上位層の子供たちに対しては、家庭学習での活用も推進していく。

また、各学校において以下の事項を重点的に取り組むように、管理職研修会等の機会を利用し指導する。
〔小学校〕(国語科) 目的や意図に応じて、自分の考えをまとめたり発表したりする活動の積極的な導入
(算数科) 問題の解き方や考え方を自分の言葉で記述する時間やお互いに説明し合う時間の確保
〔中学校〕(国語科) 目的に応じて自分の考えを書いたり、相手に分かりやすく伝わるように話したりする活動の重視
(数学科) 数学的な表現を用いて説明する活動の重視

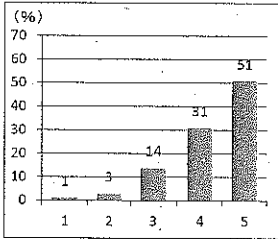
【別紙様式】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

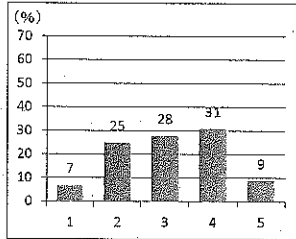
南九州市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

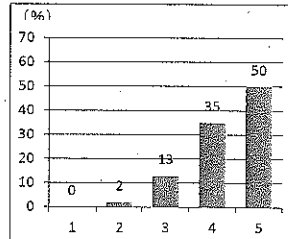


〔国語B〕

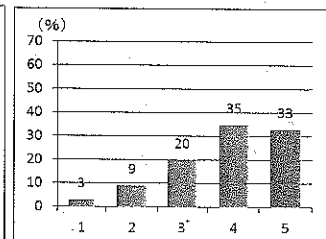


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



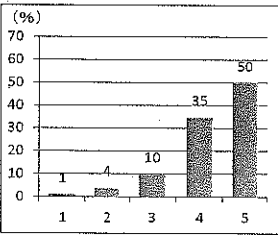
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の5段階は51%あり、4、5段階の合計は82%であるが、B問題は2～4段階の割合にあまり差がなく約30%弱であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分定着していない。
・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書いたり、自分の考え広げたり深めたりするための発言の意図を捉えたりすることに課題がある。

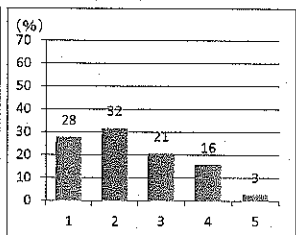
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の5段階は50%あり、4、5段階の合計は85%であるが、B問題では4、5段階の合計68%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は全体的に定着していない。
・事象や行為などを表す多様な語句についての理解や、相手に分かりやすいように語句を選択して話したり、表現の仕方について捉え、自分の考えを書いたりすることに課題がある。

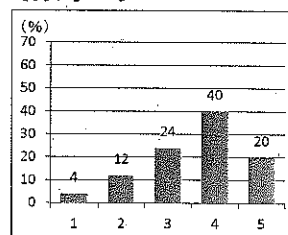
〔算数A〕



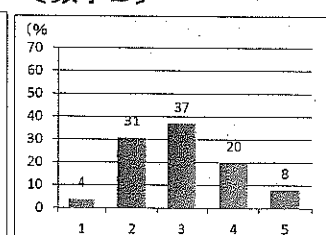
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は85%であるが、B問題で1、2段階が60%であることから、基礎・基本は身に付いているが、B問題では下位層のレベルアップと中位・上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断理由を求めるなどの記述形式の問題や、割合を比較する目的に適したグラフを選んだりすることに課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の3、4段階は64%であり、中間層が多く、B問題の2、3段階は68%であり、下位・中位層のレベルアップと上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・資料の傾向を的確に捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明したり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したりする記述形式の問題や、関数の意味を理解することに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
○ 学力向上を目指した授業の流れを示した「南九州市スタンダード」に沿った飛び込み授業を、校長研修会、教頭研修会の際に指導主事が行った。今後は、各指導主事は、担当校に出向き、問題解決型の「あてど」と「まとめ」の整合性のある授業が展開されているか等の見届けを管理職と共に行い、指導助言を行う。
○ 既に4月・8月に、鹿児島大学の高谷先生を招聘し、教頭・研修係を対象にした「校内研修のあり方」研修会を実施した。授業研究を、全校体制で取り組むことの有効性を実感させ、より効果的な校内研究体制の構築を、今後も目指していく。
○ 拠点校における「授業サポートプロジェクト」に、指導主事や近隣の小学校教諭も参加させて、授業を通じた継続的な授業づくりの指導・助言を徹底する。
○ 上・中・下位の各層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を積極的に活用するように、各学校への指導を徹底する。

また、以下の項目を、管理職研修会で指導し、各学校で取り組ませる。
〔小学校〕(国語科) 新聞の活用を促し、記事に対する自分の考えを書かせたり、効果的な表現方法を考えさせたりする指導を行う。
(算数科) 日常生活の中から、数量や図形の意味、性質や問題解決の方法などを見付けたり、作り出したりする指導を充実させる。
〔中学校〕(国語科) 日頃から、同音異義語や常用漢字のドリル学習や、目的や状況に応じて資料を活用して説明したり、話し合ったりする学習活動を取り入れる。
(数学科) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的思考方を基に、説明する活動の指導を行う。

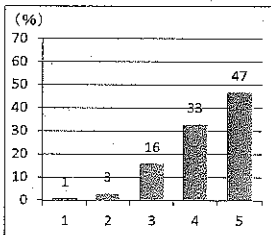
【別紙様式】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

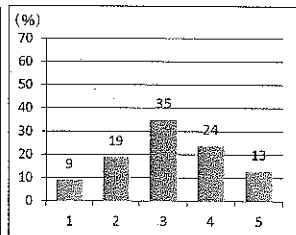
阿久根市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

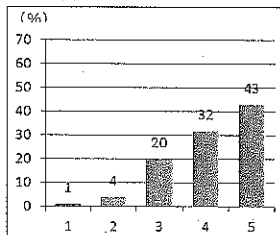


〔国語B〕

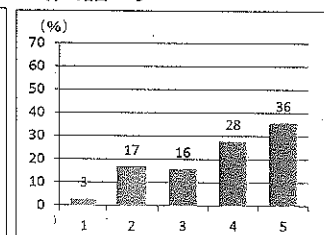


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



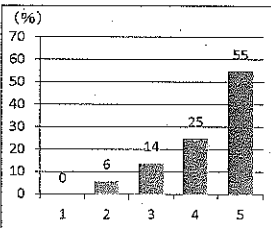
〈課題〉

・5段階の分布状況を見ると、A問題においては4、5段階の児童が約8割いるのに対し、B問題では4割を切る状況となっている。全国と比しても上位層の割合が低い。活用する力の育成と上位層の更なる学力向上が課題である。
・目的や意図に応じて必要な内容を整理して書いたり、理由を明確にして自分の考えを表現したりすることに課題が見られる。

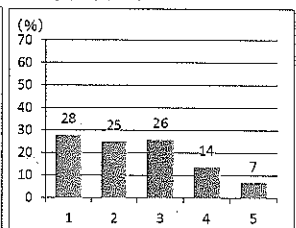
〈課題〉

・5段階分布状況を見ると、A問題では1、2段階の生徒が5%であるのに対し、B問題では20%を超える状況となっている。また、B問題では中位層の割合も少ない。基礎的・基本的な内容はある程度身に付いていると思われるが、活用する力の育成が大きな課題である。
・外部からの情報を基に必要な文章を作成したり、目的に応じて必要な情報を読み取ったりすることに課題が見られる。

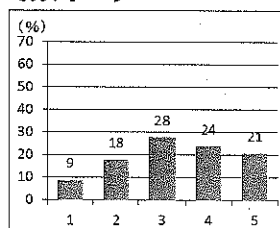
〔算数A〕



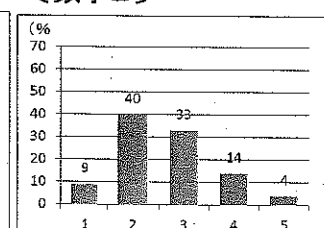
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況としては、全国に比して、A問題では中位層、B問題では下位層の割合が高く、いずれも上位層の割合が低かった。下位層の引き上げを図りながら、上位層の更なる学力向上に取り組みが必要がある。
・割合や平均に関する正答率が低く、全体的に、数量の関係性を確実に捉え切れていない状況が見られる。

〈課題〉

・5段階の分布状況を見ると、A問題においては各段階の差が小さく、1、2段階の生徒が約28%もいる。B問題になると、それが約50%に上る。基礎的、基本的な内容が十分身に付いていない。基礎学力の定着により、下位層から中位層への引き上げを図ることが急務である。
・数量関係を文字式や方程式で表したり、グラフを比例式に表したりすることに課題が見られる。筋道を立てて証明する力も弱い。

【改善策】

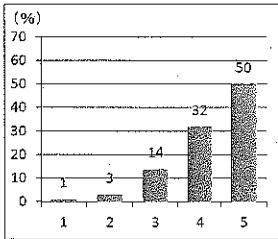
- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
- 県の施策である「授業サポートプロジェクト」「かごしま学力向上支援Webシステム」に関する取組を推進していく。特に「授業サポートプロジェクト」については、本市の指導主事等も参加し、一体となって学校支援を行う。
 - 市全体の正答率が全国を大きく下回る問題、正答率が極端に低い問題については各学校に具体的に示し、各学校の実態と照らし合わせながら補充指導等を行わせるなど、定着が不十分な内容に対する指導の充実を図る。
 - 学力向上に関する各学校の分析内容と取組計画について確認し、各校の進捗状況を踏まえた指導・助言を行う。
- また、以下の事項を、管理職研修会や学力向上連絡会、校内研修等で周知、指導し、各学校で取り組むようにしていく。
- 〔小学校〕(国語科) 考えを発表したり、書いたりするときには、根拠となる事実や理由を必ず加えることを日頃から意識させる。
(算数科) 自校の課題である学習内容の重点的指導のほか、終末段階における予想と結果の比較・検討を必ず行う。
 - 〔中学校〕(国語科) 文やグラフ、絵、写真等の複数の素材から必要な情報を取り出したり、条件に従って文章を書いたりする機会を増やす。
(数学科) 終末段階の確実な時間確保を行うとともに、表やグラフ、式等の相互関係を意識させる指導を行う。
 - 〔共通〕○ 学習のしつけの徹底を図る。各学校で内容を定め、全職員で共通実践を行うようにする。
○ 特に導入時において、知的好奇心を高める工夫をする。(内発的動機付けの重視)
○ 形に縛られず自由に意見交換できる場づくり、雰囲気の醸成に努めるようにする。(「教え合い」の重視)
意見交換の場は、画一的でなく、真に思考の練り上げとなるよう、話す側と聞く側への具体的な指導を行う。

【別紙様式】

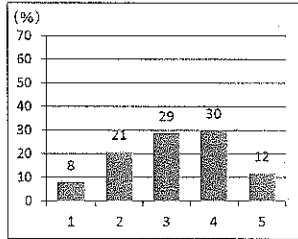
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

出水市教育委員会

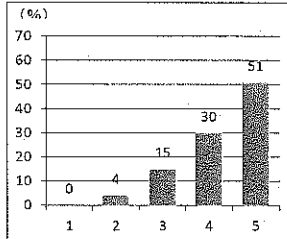
【小学校】
〔国語A〕



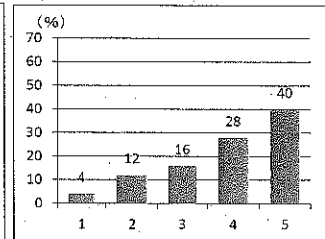
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



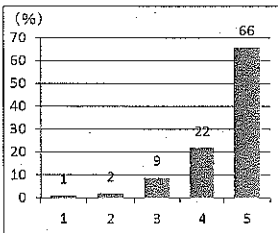
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は82%であるが、B問題では42%であることから、活用する力を高め、上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・漢字などを正しく書く力は付いているが、叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめたり、古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読んだりする力に課題がある。

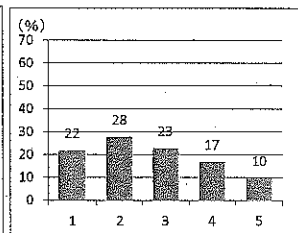
〈課題〉

・5段階の分布状況について、国語A、Bともに4、5段階が多くなっている。今後は、下位層の生徒へ個に応じた指導を行うなどして対応を図っていく必要がある。
・資料を効果的に活用し、話す内容の構成を分かりやすく工夫して話したり、目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめたりすることに課題がある。

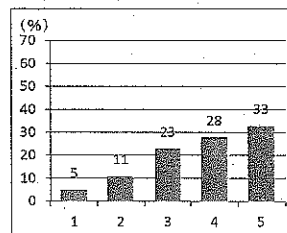
〔算数A〕



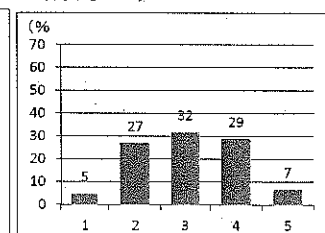
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題は上位層、B問題は下位層が多い傾向が見られる。基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分でない。
・算数の問題場面から見いだした数量の関係を考察したり、その関係を一般化して表現したりする力に課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況から、数学Aは、4、5段階の生徒が61%であるが数学Bは、36%である。特に、B問題の5段階は、低くなっていることから、上位層を更に伸ばしたい。
・日常における事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。普段から、グラフや代表値を用いて資料の傾向を捉えたり、説明したりする活動が必要である。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の重点として取り組んでいく。

- 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指し、研修会やモデル授業づくり、「授業サポートプロジェクト」への指導主事等による支援等を通して、教師の授業力向上を図る。
- 定着度の低い問題については、授業の振り返りで活用したり、補充指導で活用したりさせながら実施状況の見届けをさせ、具体策を研究・実践させる。
- 自学自習力の習慣づくりや、予習、復習など授業とつながる家庭学習を目指すために、保護者と連携した家庭学習の充実を図らせる。また、「かごしま学力向上支援Webシステム」の記述問題も補充指導のみでなく家庭学習でも活用するよう指導する。

その他以下の点を、特に改善を要する内容とし、管理職研修会や学力向上プロジェクト委員会で指導し、取り組ませる。

- 〔小学校〕(国語科)必要な内容を整理して書いたり、叙述を明確にして自分の考えを書かせたりすること
(算数科)日常場面から見いだした数量の関係を考察したり、その関係を一般化させたりすること
- 〔中学校〕(国語科)資料を効果的に活用して話したり、文章の構成を考えて書いたりする場を設定させること
(数学科)資料を基に、必要な情報を適切に選択したり、事象を数学的に解釈し、その根拠を説明させたりすること

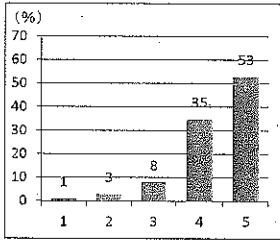
【別紙様式】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

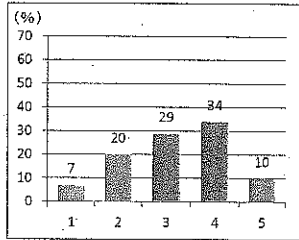
薩摩川内市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

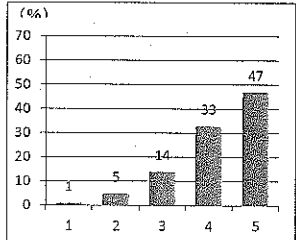


〔国語B〕

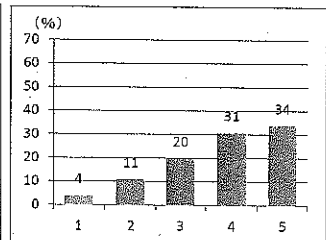


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



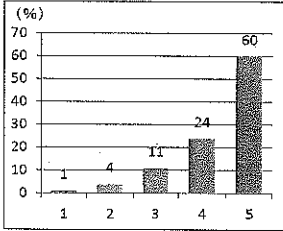
〈課題〉

・5段階の分布状況では、国語Aは、4、5の段階が88%であるが、国語Bでは44%であることから、基礎・基本は身に付いているが、活用する力は十分ではない。国語Bでは下位層・中間層の底上げを図っていく必要がある。
・物語や俳句の情景を捉えたり、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えたりすることに課題がある。

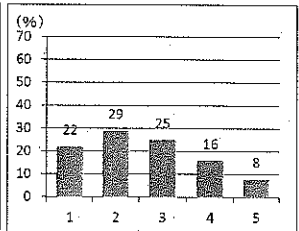
〈課題〉

・5段階の分布状況では、国語Aは、4、5の段階が80%であり、B問題では65%であることから、基礎・基本、活用力ともに概ね身に付いている。今後は、A、Bとも下位層の底上げを図っていく必要がある。
・文章の構成を工夫して分かりやすく書いたり、相手に分かりやすいように語句を選択して話したりすることに課題がある。

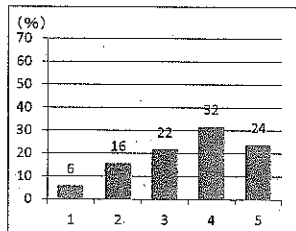
〔算数A〕



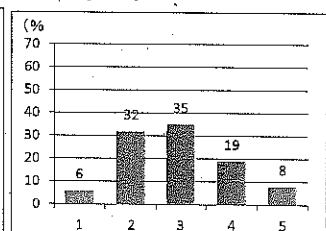
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、算数Aは、4、5の段階が84%であるが、B問題では24%にとどまっている。このことから、基礎・基本を十分に活用する力を伸ばしていく必要がある。
・商を分数で表すことの意味や示された条件を基に適切な式を立てることに課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況では、数学Aは、4、5の段階が66%であり、B問題では27%である。このことから、基礎・基本及び活用する力共に十分定着していない。下位層・中間層の底上げを図っていく必要がある。
・筋道を立てて証明したり、付加された条件の下で、新たな条件を見付けたりすることに課題がある。
・命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることに課題がある。

【改善策】

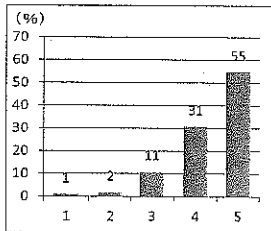
- 今後、本市の学力向上施策の重点として、以下のことに取り組んでいく。
- 小中一貫教育を通して、すべての中学校区で重点教科を指定し、9年間を見通して「どんな力をつけるために」「何を」「どのように」学ばせていくのかを示したカリキュラムを作成させる。そして、それを基に小学校と中学校が協議して決定した共通実践事項を確実に実施するよう指導する。
 - 日々の授業を改善するために、「教師の説明を減らし、子供にたっぷり活動させよう」「ペアやグループ活動をさせ、友達と磨き高め合わせよう」「分かったことや学んだことをしっかり振り返らせよう」といった授業作りの10のポイント(「本物の授業を創る10の提言」)を示し、よりよい授業づくりを目指す。
 - 各学校で全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査が100点になるまで何度も取り組む「100点チャレンジ」を確実に実施し、児童生徒にやればできるという自己有用感や達成感等を確実に身に付けさせる。
 - 家庭と連携しながら「学年×10分+30分以上」を目標に取り組みせたり、各学校で「家庭学習の手引き」の見直しを行ったりするよう継続的に指導していくことで家庭学習の充実を図っていく。
 - 夏季休業中に、市内の小・中学校教諭およそ150人が自主的に参加し、実施している「学習指導法研修会」の内容をより充実させ、授業改善につなげていく。

【別紙様式】

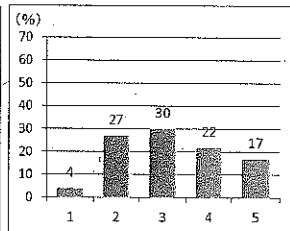
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

さつま町教育委員会

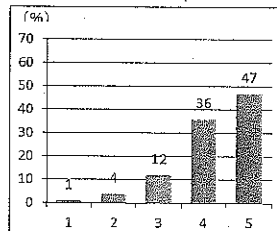
【小学校】
〔国語A〕



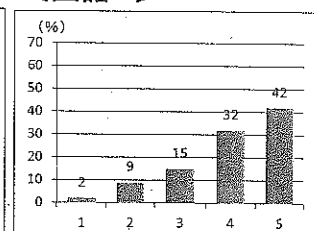
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



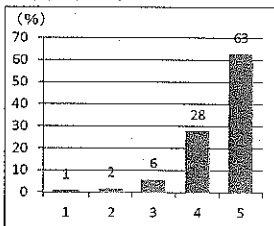
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は86%であるが、B問題では39%にとどまっている。昨年度と比較するとB問題は昨年度並みであるが、A問題は22%増加した。基礎的・基本的な内容は定着しつつあるが、それを活用する力の向上が依然として課題である。
・自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることに課題がある。

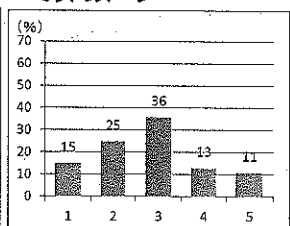
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は83%でありB問題も74%と、昨年度との比較でも、B問題に10%の伸びが見られる。力は付きつつあるが、活用する力の更なる向上が必要である。
・相手に分かりやすいように語句を選択して話すことや、表現の仕方について捉え、自分の考えを書くなど、表現力の更なる育成が必要である。

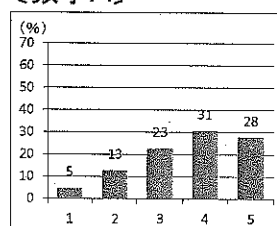
〔算数A〕



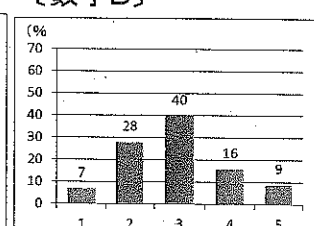
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階が91%であるが、B問題では24%と、昨年度と比較するとA問題は7%の伸びがあるのに対し、B問題は7%減少した。活用する力の育成に大きな課題がある。
・身近なものに置き換えた基準量とその割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述するなどの、数学的な考え方を高める必要がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は59%であり、B問題も25%と、昨年度とほぼ同様な結果となっており、基礎的・基本的な内容及びそれを活用する力とも引き続きの課題であり、更なる向上が必要である。
・図形(扇型)の弧を求めることや関数の意味を考えること、様々な事象の変化に対して数学的な表現を用いて説明すること等に課題がある。

【改善策】

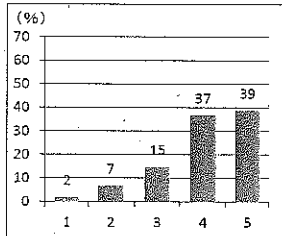
今後、以下に示す内容について、本町の学力向上施策の実施の重点として進めていく。

- 1 学業指導・学習習慣の徹底
さつまの三構え(身構え・心構え・物構え)を各学校が徹底して実践することで、児童生徒全員が授業に参加し、話す、聞く、考える、書く、発表する等の当たり前のことを確実に定着させる。
- 2 授業の充実
研究授業や公開研究会、授業充実に向けた各種研修会を実施し、授業のポイントを町教委指導主事等が共通理解の下、指導していく。
- 3 個別指導・家庭学習の充実
「鹿児島ベーシック」「鹿児島チャレンジ」を対象の全児童生徒に印刷・配布し、各学校にて個別指導を行う。また、さつまタイム(家庭学習の見通しをもつ時間)を各学校で行い、主体的な家庭学習を実践させる。
- 4 その他
町学力向上週間を設定し、本町の施策が確実に実行されているか、各学校毎にチェック、修正し、改善策を実践させる。

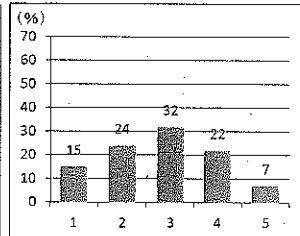
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

長島町教育委員会

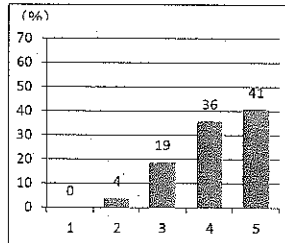
【小学校】 〔国語A〕



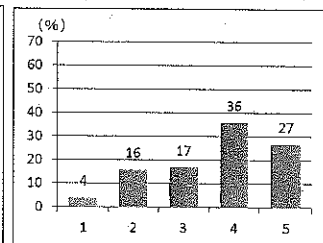
〔国語B〕



【中学校】 〔国語A〕



〔国語B〕



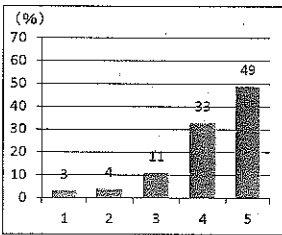
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は76%であるが、B問題では29%である。基礎的・基本的事項は概ね定着しているが、それらを活用する力は十分に定着していない。
- ・目的や意図に応じて必要な情報を見つけて読むことや、文章全体の構成を考えて読むこと、引用して書くことに課題が見られる。

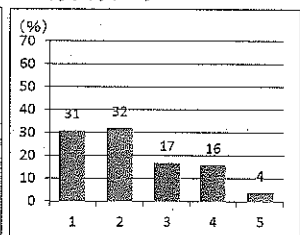
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は77%であるが、B問題は63%である。基礎的・基本的事項は概ね定着しているが、それらを活用する力は十分に定着していない。
- ・文章の表現の仕方について自分の考えをもつことや、交流を通して自分の考えを広くすること、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することや自分の考えをまとめることなどに課題が見られる。

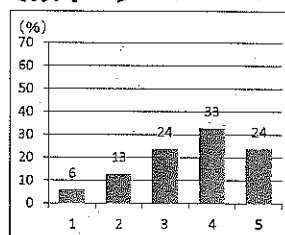
〔算数A〕



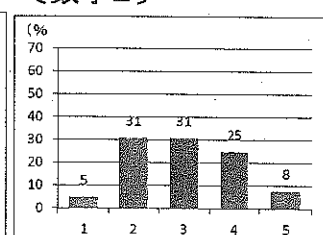
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は82%であるが、B問題では20%である。基礎的・基本的事項は概ね定着しているが、活用する力は十分でなく、中位層及び下位層の底上げが必要である。
- ・算数の問題場面から見いだした数量の関係を一般化して捉え、表現すること、示された資料から必要な情報を選択して数学的に処理することに課題が見られる。

〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は57%、B問題では33%であることから、中位層及び下位層の基礎的・基本的事項の定着及び活用する力に課題が見られる。
- ・数学の問題場面から与えられた情報を読み、解決方法を数学的に説明すること、図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて証明し、証明した事柄を用いて新たな性質を見いだすことに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り組むようにする。

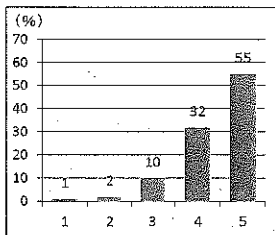
- 本町で実施している各教科等部会や中学校区教育研究会を中心に、授業を通じた指導力向上につながる研修を実施するとともに、学力向上策を具体的に設定し、それに沿った授業改善を図る。中学校においては、各教科担当教諭による町内共通の実力テスト作成を通して教材研究及び指導力向上につなげるようにする。
 - 児童生徒の思考力・表現力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現するため、問題解決的な授業づくりについて指導を行う。また、授業の中で「かごしま学力向上支援webシステム」の問題を計画的・効果的に活用させ、定着不十分な領域等について児童生徒に継続した指導を行う。
- 以下の事項について管理職研修会や小中合同研修会等で指導し、各学校で継続的に取り組ませる。
- 【小学校】(国語科) 目的に応じて文章中から必要な情報を見つけて読むこと、目的や意図に応じて必要な情報を整理して書くこと、自分の考えや意見をもたせ、他者と交流する学習を通して自分の考えをまとめ、書く学習を充実させる。
(算数科) 算数の問題場面から必要な情報を選択し、数理的に処理したり、数量の関係を一般化して表現したりする学習を充実させる。
 - 【中学校】(国語科) 文章の表現について自分の考えをもつこと、交流を通して自分の考えを広くし、表現する学習を充実させる。
(数学科) 問題場面や与えられた表、グラフから、必要な情報を適切に読み取ること、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する学習を充実させる。

【別紙様式】

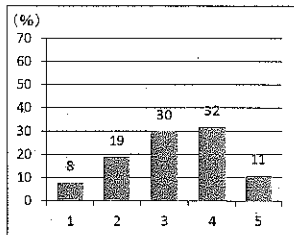
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

霧島市教育委員会

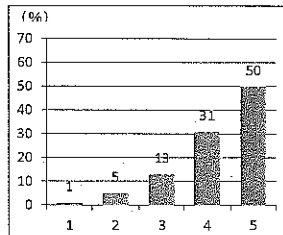
【小学校】
〔国語A〕



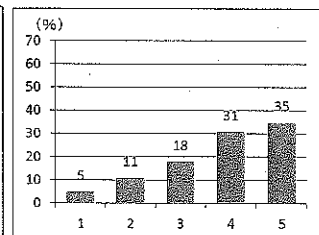
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



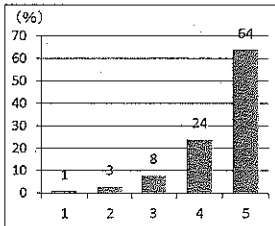
〈課題〉

・5段階の分布状況において、A問題の定着は比較的良好である。B問題では4、5段階の者が43%である反面、1、2段階が1/4程度と低位層にも広がりがあり、課題が残されている。
・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両面で、「目的や意図に応じた構成」に関する課題が大きい。無解答率は全体的に低めであり、粘り強く取り組もうとする姿勢は窺えるが、県・全国同様、記述問題についてはその割合が高くなる傾向があり、問題を読み取る力や自分の考えを簡潔にまとめる力の育成が必要である。

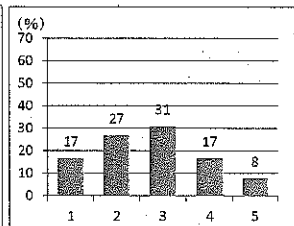
〈課題〉

・5段階の分布状況において、A問題の定着は比較的良好である。B問題では右上がり傾向にはあるものの、低位・中位層を4、5段階へ引き上げる指導の工夫が必要である。
・特に「情報を集めるための見通しをもつ」問題等、言語活動と関係ある問題に課題が大きく、関連する授業内容の充実が必要である。また無解答率が県比・全国比ともに若干高めとなっている。記述式ばかりでなく、選択式にもその傾向が認められ、問題に粘り強く取り組む態度の育成が必要である。

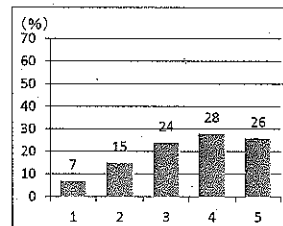
〔算数A〕



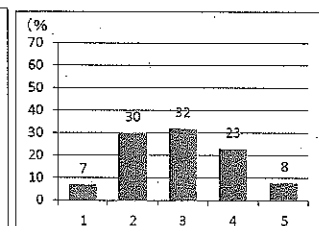
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況において、A問題においては上位層が多く、B問題においては、正規分布に近いものの下位層が若干多く、下位層の底上げが課題である。
・日常生活と関連のある問題において、必要な情報を収集し、選択して判断することや、示された方法を場面に応じて適用する力を付ける必要がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況において、A問題においては上位層がやや多く、B問題においては正規分布に近いものの、2段階の者が多くなっており、下位層の底上げが課題である。
・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈し、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明したりする力を付ける必要がある。

【改善策】

- 「学力向上プラン」による各校の学力向上対策の改善
 - ・毎年度、各校に作成と定期報告を求めている、学力向上対策における計画・評価資料「学力向上プラン」を活用した指導により、学校全体での学力向上に関するPDCAサイクルを確立させる。
- アンダーアチーバー・ゼロをめざす学力向上対策
 - ・全小中学校で実施している知能検査とNRTの分析資料等をもとに、力を発揮できていない児童生徒へ視点を当てた授業改善と、きめ細やかな個別指導を行う。
- 県・地区事業を活用した学力向上対策
 - ・県教委「授業サポート」や始良・伊佐地区教育事務所「小学校学力向上対策サポート」事業へ、市の指導主事も参加し、協力して事業の効果を高めるとともに、継続的な指導を行う。
 - ・「かごしま学力向上支援Webシステム」を積極的に活用させ、活用型問題への習熟を図る。

〈教科・調査別〉

〔小学校〕(国語科) 「読むこと」の読解指導と「書くこと」の言語活動を組み合わせ、書き手の意図を意識した指導を行う。

(算数科) 日常生活と関連のある事象を取り扱い、統合的・発展的に考え、問題を解決できるようにする。

〔中学校〕(国語科) 定期テストへB問題を取り入れる指導、Webシステムの活用等の指導により、B問題への習熟を図る。

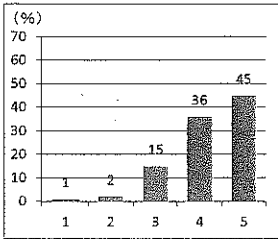
(数学科) 解決の過程で数学的な表現を用いて論理的に説明したり、よりよい考えなどを話し合ったりする場面を設定する。

【別紙様式】

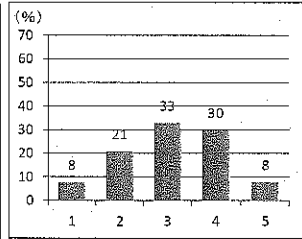
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

伊佐市教育委員会

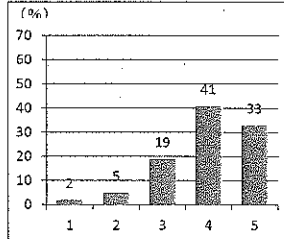
【小学校】
〔国語A〕



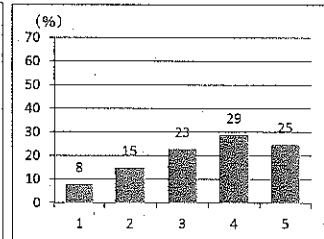
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



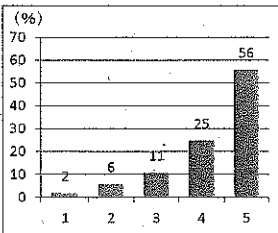
〈課題〉

・5段階の分布では、A問題の4, 5段階は81%、1, 2段階は3%であり、改善が図られている。しかしB問題では、4, 5段階は38%であることから、基礎・基本の力は付いているが、それを活用する力は十分でない。
・資料を読み、適切な情報を取り出し、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるよう説明することに課題がある。

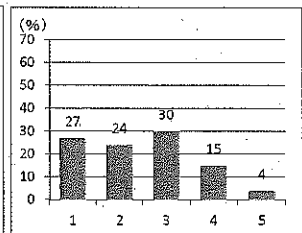
〈課題〉

・5段階の分布状況から、A問題の4, 5段階は75%であるが、B問題では54%であることから、概ね基礎・基本は定着しつつあるが、それを活用する力が十分でない。
・伝えたい事柄が効果的に伝わるように書くことに課題がある。
・文章から適切な情報を取り出し、根拠を明確にして、考えをまとめることに課題がある。

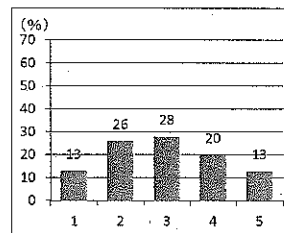
〔算数A〕



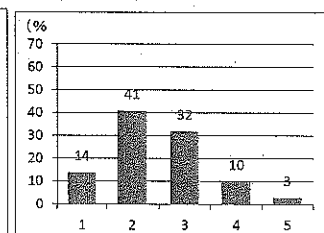
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況から、A問題の5段階は、56%であり、改善が図られている。しかしB問題において1, 2段階が、51%であり、活用する力に大きな課題がある。
・筋道を立て、根拠を明確にして説明することに課題がある。
・無解答率が高いため、問題の意味を読み取る力、根拠強く問題に取り組ませる力を育成する必要がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況から、A, B問題ともに下位層の割合が非常に高い。基礎・基本の定着を徹底させながら、活用する力を育成していく必要がある。
・問題を解決する方法や様々な課題の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
・全体的に、表現する問題については、無解答率が高い。

【改善策】

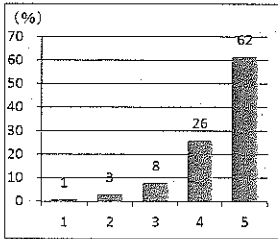
今後、以下に示す事項について、本市の学力向上に向けた重点施策として取り扱っていく。
○「学力向上アクションプラン」を推進し、授業改善を継続する。(管理職研修会や学校訪問、校内研修での指導に生かす)
○定着が不十分であった問題については、分析結果に基づき、授業で活用したり、補充指導を徹底させたりするなど、見届けまで確実に行う。
○かごしま学力向上支援Webシステムの評価問題を授業等で効果的に活用するように具体的な指導を続ける。
○拠点校における「授業サポートプロジェクト」や校内研究授業に、本市の指導主事が参加し、継続的な授業づくりの支援や指導・助言を行う。
また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各学校で取り組ませる。
【小学校】(国語科) 自分の考えを理由や根拠を明確にして、表現させる指導を行う。
(算数科) 資料や図・表から読み取った情報を整理し、筋道を立てて根拠を明確にし、解決に導く指導を行う。
【中学校】(国語科) 資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして、自分の考えをまとめる指導を行う。
(数学科) 筋道を立てて数学的な表現を用いて記述させたり、考えた理由について説明させたりする場を学習の中に意図的・計画的に設定する。

【別紙様式】

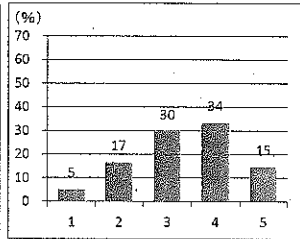
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

始良市教育委員会

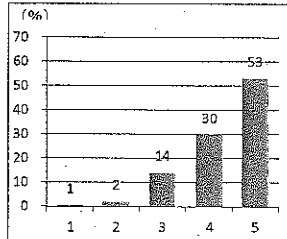
【小学校】
〔国語A〕



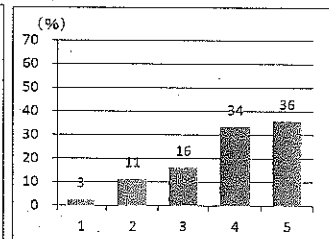
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



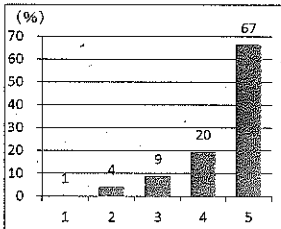
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は約88%で、基礎・基本は定着傾向である。B問題の4、5段階は約48%であり、上位層へとさらに伸ばす必要がある。
- ・領域別では、「読むこと的能力」「話すこと・聞くこと的能力」に課題がある。
- ・複数の条件を関係付けて考える問題に課題がある。

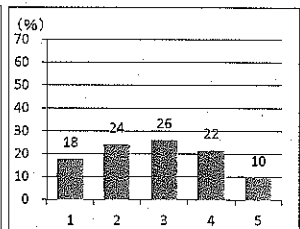
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は約83%で、基礎・基本は定着傾向である。B問題の4、5段階は約70%であり、上位層へとさらに伸ばす必要がある。
- ・領域別では、「読むこと的能力」「話すこと・聞くこと的能力」に課題がある。
- ・記述式についてもまだ課題がある。

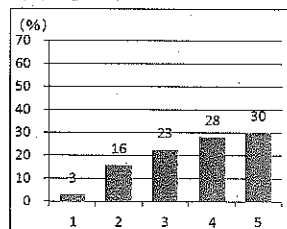
〔算数A〕



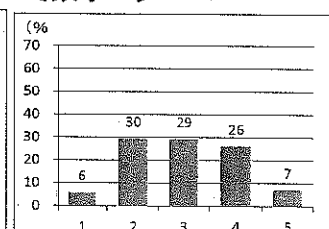
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は約86%で、基礎・基本は定着傾向である。B問題の4、5段階は、約31%であり、活用に課題がある。下位層を引き上げる必要がある。
- ・領域別では、「数量関係」「図形」領域の正答率が高い。
- ・記述式より短答式の設問に課題がある。

〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は約58%で、B問題の4、5段階は約34%であり、基礎・基本、活用ともに課題がある。下位層を伸ばす必要がある。
- ・領域別では、「関数」「図形」領域の正答率が低い。
- ・数学Bに関しては、記述式の設問に課題がある。

【改善策】

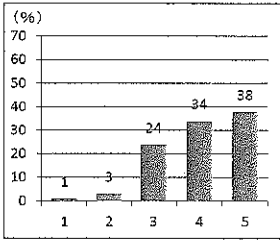
- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 「始良市学力向上アクションプラン推進会議」の中で、本市の結果について報告すると共に、始良市で設定して取り組んでいる「学力向上の三つの重点と七つの徹底事項」について、課題から重点化を図って伝え、実践化を進めていく。
 - 五つの中学校ブロックごとに、1学期までの共通実践事項の取組や全国学力学習状況調査の結果から、2学期以降の重点を決め、共通して実践していく。
- 教科別では、以下のことを各種研修会や校内研修で指導し、各学校の授業で徹底できるように取り組む。
- (国語科)
- ・ 複数の情報を関係付けて考えるような問いを取り入れた授業展開に努める。
 - ・ 作品のよさを問う設問を出し、作品の内容だけではなく表現方法に着目させて評価させる授業に努める。
- (算数・数学科)
- ・ 基礎的・基本的な「算数・数学用語」に関して、反復による指導と、説明できるようになるまでの指導に努める。
 - ・ 絵や図に書いて、自分の考えを説明する場面を位置付けた指導に努める。

【別紙様式】

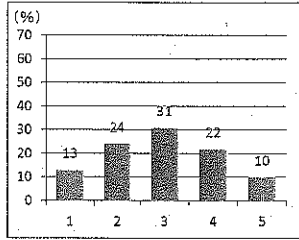
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

湧水町教育委員会

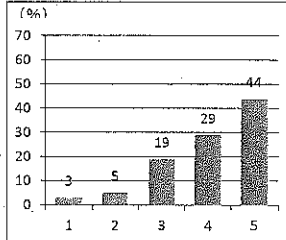
【小学校】
〔国語A〕



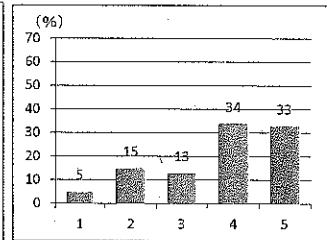
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



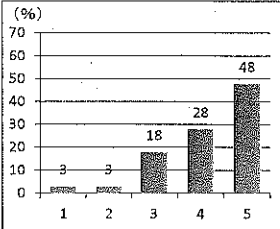
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題は昨年と比べて下位層が薄くなり、4、5の段階が厚くなった。B問題では、1と5の段階が減少し、中位層が厚くなっている。
・A問題では正答率が平均以上でありながら、B問題では正答率が低い児童が見られる。

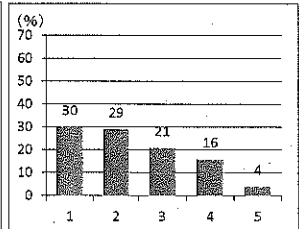
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では5の段階が最も多く、右肩上がりの結果である。B問題では、上位層と下位層に分かれている。習熟度別の指導も考慮すべきである。
・A問題では漢字の読みの正答率が高いが、書きの正答率が低く、併せて無解答率が高い傾向がある。

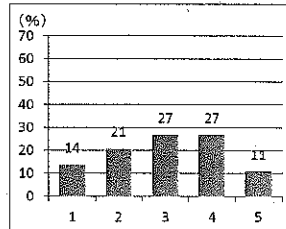
〔算数A〕



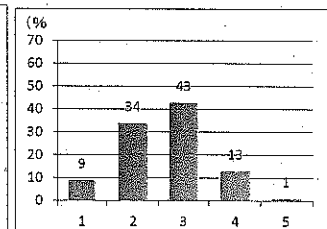
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では5の割合が最も多い。反対にB問題では、1、2が全体の59%と多く、5の割合が低い。基礎・基本はある程度身に付いているが、活用する力が十分ではない。
・無答は少ないが記述問題の正答率が低い状況であることから、書く学習活動の充実が課題である。

〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では、全体的にばらつきが大きく、5の割合が低い。B問題でも5の割合が極端に少なく、2、3の段階が厚い状況である。
・A問題では、どの領域も正答率が全国平均を下回っているが、「数と式」では、その差が大きい。B問題では数学的な見方や考え方を苦手としている生徒が多い。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱うようにしていく。
- 学校マネジメント: 年度当初に全職員で共通理解した「学力向上アクションプラン」を組織的に確実に実施する。
 - 不断の授業改善(『教師満足型授業』から『子ども満足型授業』への転換): 教師は授業の終末時、児童生徒に書かせる「学習の振り返り」によって授業を自己評価するとともに、次時以降の授業づくりの参考とする。
 - 活用力の育成: 学力向上Webシステムの実施を年間指導計画に位置付ける。(児童生徒及び授業者の評価資料として活用→授業改善へ)
 - 家庭学習の習慣化: 「学ぶ価値の実感と学ぶ意欲の醸成」にこだわる授業と連動した家庭学習課題を設定する。その際、一人一人に応じた家庭学習となるよう、「継続的」、「適量」、「良質」を観点に内容や方法を指導又は支援する。
- 〔小学校〕(国語科)・目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで、自分の考えを表現する活動の重視
(算数科)・考えを伝え合い、練り合う時間を確保し、課題に対する解を自分の言葉で表現する活動の重視
- 〔中学校〕(国語科)・事実と考えとの関係に注意し、相手に分かりやすいように構成を工夫して話す活動の重視
(数学科)・正の数と負の数、文字式の意味など、実生活の場面に結び付けて理解を深める指導の充実

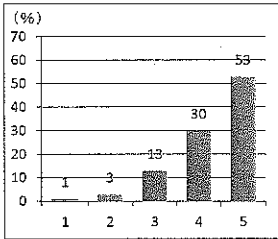
【別紙様式】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

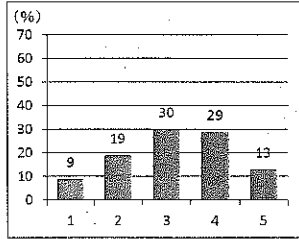
鹿屋市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

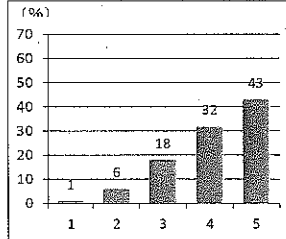


〔国語B〕

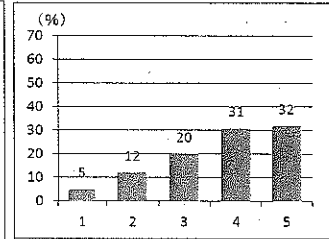


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



〈課題〉

・全国を下回っているが5段階の分布状況では、A問題で4、5段階の児童が83%であり、例年に比べて高い通過率である。また、B問題は、4、5段階の児童が増加したが、1、2段階の児童が28%あり、思考力・判断力・表現力等の育成には課題がある。

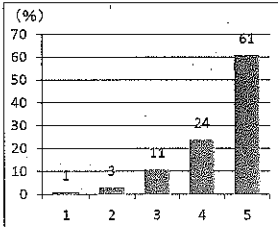
- ・目的に応じて、視点をもって読み取ることに課題がある。
- ・目的や意図に応じて適切な言葉で説明することに課題がある。

〈課題〉

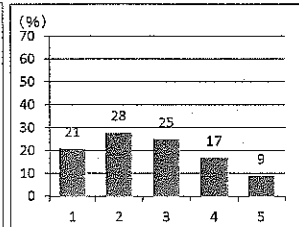
・5段階の分布状況ではA問題で4、5段階の生徒が75%であり、昨年度より落ち込んでいる。一方、B問題は、4、5段階の生徒が増加しており、過去2年間に比較して伸びがみられるが、1、2段階に例年と同程度の生徒がおり、思考力・判断力・表現力等の育成が課題である。

- ・文章の要旨を捉えて読み取ることに課題がある。
- ・相手に分かりやすい語句を選択して伝えることに課題がある。

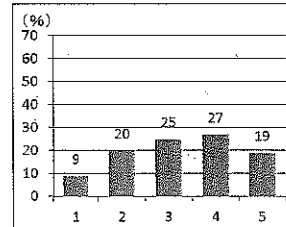
〔算数A〕



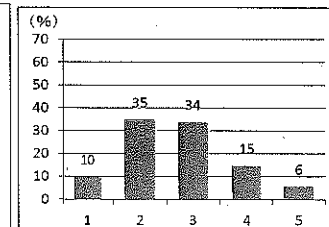
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題は4、5段階の児童が85%であり、昨年度と同様に高い結果である。B問題は5段階の児童が大きな伸びがあるが、1、2段階の児童が半数程度あり、思考力・判断力・表現力等の育成には、まだ課題がある。

- ・単位量当たりの大きさをもとに考える内容に課題がある。
- ・問題場面から数量関係を考察し、式を立てることに課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布ではA問題で1～3段階の生徒が多く、基礎的・基本的な内容の定着に問題がある。また、B問題は、1段階の生徒が減少したが、4、5段階の生徒は昨年度と同程度であることから、思考力・判断力・表現力等の育成には、まだ課題がある。

- ・文字を用いて式を表したり、方程式を解いたりすることに課題がある。
- ・筋道を立てて説明することに課題がある。

【改善策】

- 本年度は、各学校において学力に関する各種調査を分析し、R-PDCAサイクルによって学力向上に対する具体策を修正しながら実践を進めている。そこで、学校担当指導主事も各学校の分析結果を基に、積極的に関わり、改善策を共に考えていく。
 - 小学校では、改善傾向にあることから、各中学校区において、過去数年間の結果を基に、9年間を見通した課題の解決を目指し、小学校と中学校の接続の在り方を検討していく。
 - 大隅教育事務所作成の「今週の1問」やかごしま学力向上支援Webシステムの評価問題を活用し、個々の児童・生徒に対応した指導を行っている具体例を示し、継続的に指導を行えるように働きかけていく。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、下記の項目を授業改善の重点として取り扱うこととする。
- 〔小学校〕(国語科) 視点をもたせて文章を読んだり、構成を考えて伝え合ったりする活動の充実
(算数科) 具体物や半具体物を用いて、問題場面を考えたり、式やグラフの意味を説明したりする活動の充実
- 〔中学校〕(国語科) 目的を明確にして読み取る活動や伝える際の言葉や構成を考えて説明する活動の充実
(数学科) 立式する際の数の意味を考えたり、筋道を考えて説明したりする活動の充実

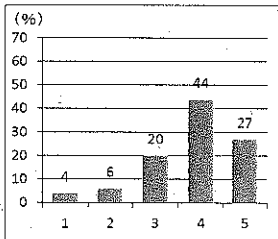
【別紙様式】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

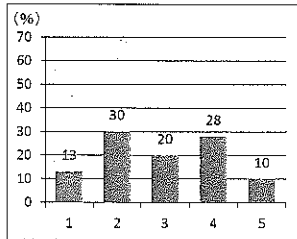
垂水市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

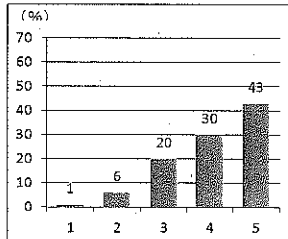


〔国語B〕

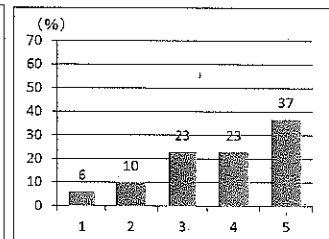


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



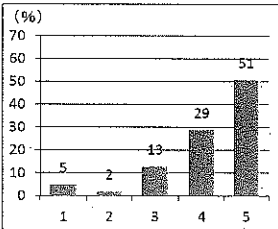
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は71%であるが、B問題では38%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用していく力に課題が見られる。
・話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉えたり、目的や意図に応じて、文章全体の構成を考へたりすることに課題がある。

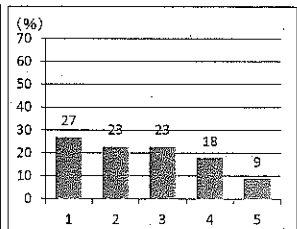
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は73%であるが、B問題では60%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用していく力に課題が見られる。
・話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたり、目的に応じて必要な情報を読み取ったりすることに課題がある。また、表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題において、無解答率が高い。

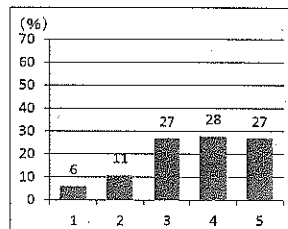
〔算数A〕



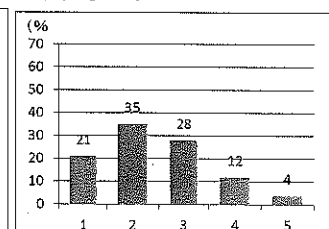
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は80%であるが、B問題では27%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用していく力に課題が見られる。
・問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述したり、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述したりする問題において無解答率が高く、課題である。

〈課題〉

・5段階の分布状況から、数学Aは、3～5段階の割合に差がないこと、数学Bは、2、3の段階の割合が多いことから、基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していない。
・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、筋道を立てて考え、証明したりする問題において無解答率が高く、課題である。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策実施の重点として取り扱っていく。

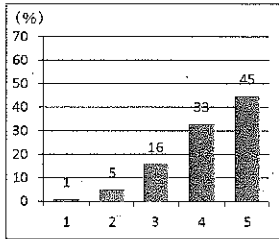
- 児童生徒一人一人に確かな学力を付けるために、学力向上モデルに基づいた授業を実施させる。
 - ・ 授業のねらいである「めあて」と学習結果としての「まとめ」を明確にして授業に臨ませる。
 - ・ 授業の過程(途中)において、子供たちが、深く考えたり、対話したりする「主体的な学習」の場を位置付けさせる。
 - ・ 終末の段階で学習したことを「定着させる場」を設定させる。
- 「分かる授業」を実現し、学習活動が活性化するなど授業の質的な改善を図るために、ICT機器(タブレット等)を積極的に活用させる。
- 土曜授業や放課後等の個別指導を、より一層充実させる。
 - ・ 全小・中学校で取り組んでいる、「垂水タイム」等での家庭学習との接続や指導も、さらに強化させる。
 - ・ 個に応じた指導を充実させるために、「かごしま学力向上支援WEBシステム」や「今週の1問」、「eライブラリ」等を活用するよう、各学校への指導を徹底する。
- 記述式の問題において無解答率を少なくし、正答率を高めるために、日常の授業において、以下の視点で授業改善に取り組ませる。
 - ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を意図的に位置付ける。
 - ・ 他人の意見を咀嚼(そしゃく)し、自分の考えを表明する活動を増やし、表現する力を育成する。

【別紙様式】

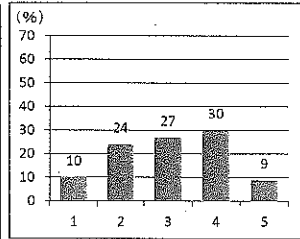
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

曾於市教育委員会

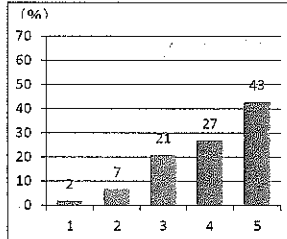
【小学校】
〔国語A〕



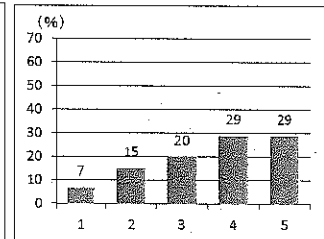
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



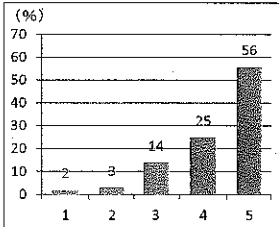
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は78%であるが、B問題は39パーセントである。特に、B問題については、上位層が少なく、下位層が多い。
・A問題では、目的に応じて文章の中から必要な情報を見付けて読むこと、B問題では話の構成を工夫して話すことに課題がある。

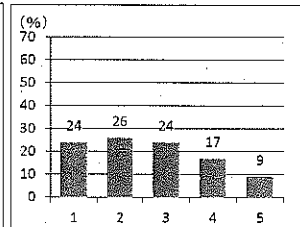
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は70%であるが、昨年度と比較すると中位層、下位層が増加している。B問題も下位層が多いため、下位層への指導が課題である。
・B問題では、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することについて正答率が低く、無解答率も高い。また、表現の仕方について捉え自分の考えを書くことについても課題がある。

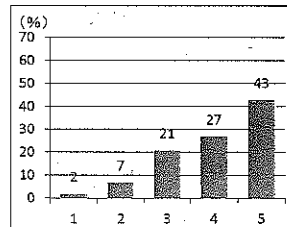
〔算数A〕



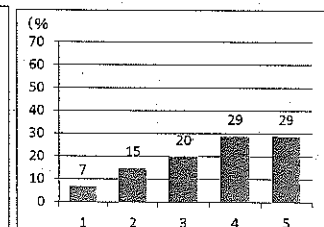
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は81%であるが、中位層が県平均よりも多い傾向が見られる。B問題の4、5段階は26%と極端に少なく、下位層が半数を占めている。
・A問題では、加法と乗法の混合した整数と小数の計算、三角形、平行四辺形の底辺の面積の関係の理解、B問題では、領域に関係なく、記述式の問題について課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では中、低位層が県平均よりも多い傾向が見られる。B問題では上位層は少なく、2、3段階の割合が県平均を大きく上回る傾向が見られる。
・A問題では、分数の乗法、体積を求めることについて、B問題では角の大きさが等しいことを証明することや、事象と式の対応を説明することなど、記述式の問題について課題がある。

【改善策】

今後、本市では「すべての子どもたちに確かな学力を～授業改善を学力向上へ～」をキャッチフレーズに、学校訪問や授業参観等を通して、特に以下に示す事項について、指導の更なる充実を図る。
○ 学びを支える「基礎力」の徹底……学習規律(授業での約束・学び方)の徹底、「聴き合う」の育成等、「学びの基礎力」の定着の徹底を図るとともに、つまづきの早期発見や補充指導等、「知識・技能」の確実な定着に向けた指導を徹底する。
○ 「曾於市学力向上スタンダード」に基づく授業づくり……自分の考えを記述したり相手に分かりやすく伝えたりする場や、学び合いを通した課題解決、学びを実感できる振り返りの場の設定等について指導を徹底する。
○ 「今週の1問」や「過去問」の活用……授業や個別指導において、計画的・効果的に活用し、定着が不十分な領域の定着を図る指導を徹底する。

以下の事項について、管理職研修会や校内研究授業等で指導を徹底し、授業改善を図る。
〔小学校〕(国語科) 目的や意図に応じて、文章全体の内容や構成を工夫して書く指導を行う。
(算数科) 基礎・基本の徹底とともに、日常生活の事象を数理的に捉え、問題を解決する指導を行う。
〔中学校〕(国語科) 場面や目的、意図を考えながら情報を読み取ったり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする指導を行う。
(数学科) 基礎・基本の徹底とともに、具体物を操作して意味を捉え直したり、説明したりする指導を行う。

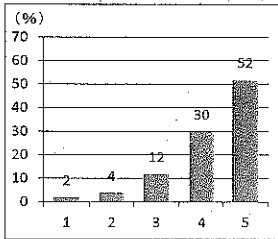
【別紙様式】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

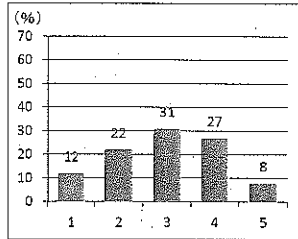
志布志市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

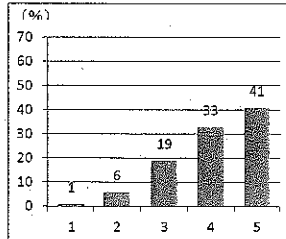


〔国語B〕

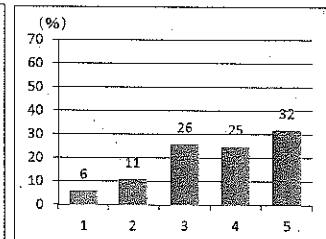


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



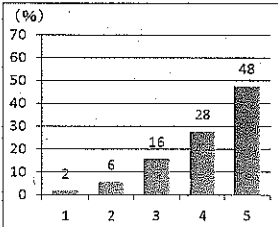
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階が82%であり基礎・基本は身に付いているが、B問題では35%であることから、身に付けた知識理解を活用する力が十分と言えない。B問題での1～4段階をどのように伸ばしていくかが課題である。
・目的や意図に応じて文章全体の構成を考えたり、必要な内容を整理して書いたりすることに課題が見られる。

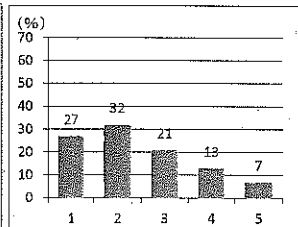
〈課題〉

・5段階の分布状況では、4、5段階の生徒がA問題で74%で、B問題57%である。今後は1～4段階の生徒をどのように伸ばしていくかが課題となる。
・目的に応じて必要な情報を読み取ったり、集めた材料を整理して文章を構成したりすることに大きな課題が見られる。また、自分の考えを書く問題については、無解答率が高い。

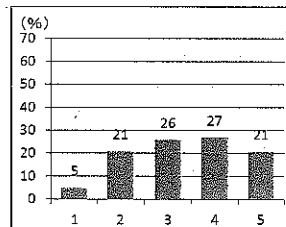
〔算数A〕



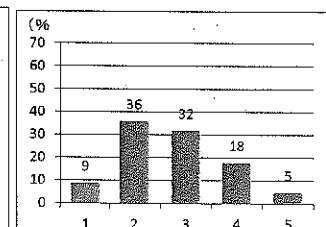
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階が76%であるが、B問題では4、5段階の上位層が2割と少なく、1、2段階の下位層が6割と多い傾向にある。
・図や表をもとに考察し、自分の考えを説明したり、理由を書いたりする記述式問題に大きな課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題で分布の広がりが大きい。また、B問題で2、3段階の生徒が68%と多く、4、5段階は23%である。少人数指導、習熟度別指導等、個に応じた指導体制をどのように実効性のある指導にしていくかが課題となる。
・論理的に考察して表現したり、根拠を述べながら説明したりする問題で無解答率が高い。

【改善策】

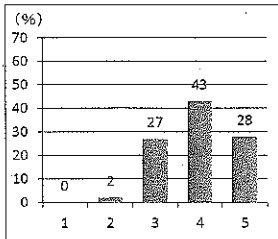
- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 正答数、問題形式、無答率、誤答傾向等、多面的に分析・改善策を全職員で検討し、全校体制でつまずきの回復指導や個に応じた指導と見届けを行う。
 - 児童生徒の状況に応じて時間や量、条件などの負荷をかけた指導を継続し、基礎・基本の確実な定着を図る。
 - 志布志市授業モデル等に基づき、教師一人一人の授業課題を明確に把握させ、導入・展開・終末における学力向上のポイントに沿った指導を確実に行う。また、定期的に授業改善グラフ作成ソフトを活用し、教師一人一人の改善状況に応じた個別指導を徹底する。
 - 児童生徒の関心意欲の向上、理解の深さや広がり、また指導の効率化のために、ICTタブレット、書画カメラ等効果的に活用し授業改善を図る。
 - 児童生徒質問紙で明らかとなった読書量や家庭学習、食育の充実に向け、「志アップ子育て手帳」を用いて、各校のPTAや社会教育事業の中で啓発する時間を設け、保護者や住民の学力に対する意識を向上させる。
 - 志学教室(中学生の土曜学習教室)、生涯学習課の各種体験活動等の参加者を増やすため保護者、住民への啓発の在り方を工夫する。また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科)表やグラフ、図から考えたことを記述し、考えたことをもとに話し合う活動を他教科でも充実させる。
(算数科)教師の意図を明確にした発問により論理的な説明・根拠を練り上げる活動、考えを記述する活動を充実し継続させる。
- 〔中学校〕(国語科)雑誌、新聞等、多様な文章に触れ、それぞれに応じた読みを深め、自分の考えを長文で記述する指導を行う。
(数学科)論理的な思考や根拠をもとに表現する場を多く設定し、順序立てた説明の仕方の習熟により無解答を減らす。

【別紙様式】

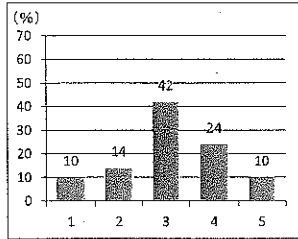
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

大崎町教育委員会

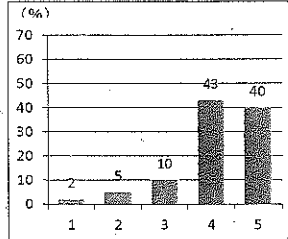
【小学校】
〔国語A〕



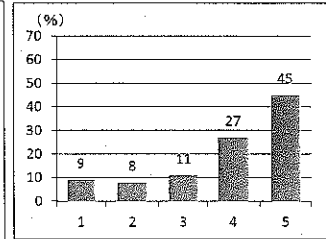
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



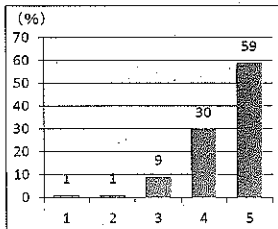
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階が71%であるのに対し、B問題は34%となっている。このことから、基礎・基本は身に付いてきているが、それらを活用する力が十分身に付いていない。
- ・漢字の書き取りや語句の使い方といった基礎的な言語事項に課題が見られる。
- ・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書いたり、話し合いの中で相手の発言の意図を捉えたりすることに課題が見られる。

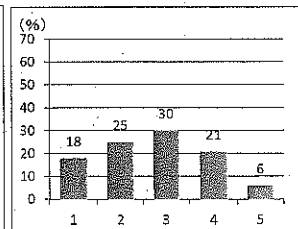
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、4、5段階ではA問題が83%、B問題が72%と、基礎・基本や活用する力が、ある程度均等な状態になっている。このため、全体的に指導の更なる底上げを図ることが課題となる。
- ・漢字の書き取りに課題が見られる。
- ・物事を見たり聞いたりして捉えたことを、比較したり適切な言葉を選んだりしながら書いたり、相手に話したりすることに課題が見られる。

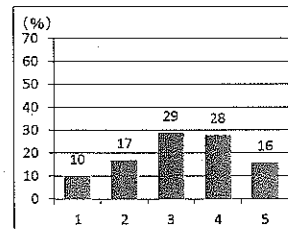
〔算数A〕



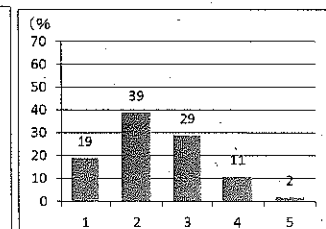
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では中・上位層が多いが、B問題では中・下位層が多い傾向が見られる。このことから、基礎・基本は身に付いてきているが、それらを活用する力が十分身に付いていない。
- ・与えられた条件から答えを導き出すための方法や理由を考えることに課題が見られる。
- ・記述式の問題では、無答率が高い。

〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A・B問題の2～5段階における割合の合計にあまり差がない。また、B問題では2、3段階における割合の合計が68%となっている。このことから、基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していない。
- ・全体的に課題が多いが、特に図形の要素を理解したり、関数の意味を捉えグラフや言葉で表したりすることに課題が見られる。
- ・記述式の問題では、無答率が高い。

【改善策】

今後、以下の点に示す事項について、本町の学力向上施策の重点として充実を図っていく。

- 町小中連携研究会を中心に、小中学校が連携して、学習の課題の徹底と学力向上に向けた授業改善、指導力の向上に取り組む。
- 拠点校(大崎中学校)における「授業サポートプロジェクト」へ小学校教員の参加も積極的に勧め、学校への還元を図らせるとともに、指導主事による学校訪問を継続し、授業づくりや効果的な指導法の在り方について指導・助言を行う。
- 定着が不十分であった問題については、補充指導を徹底させたり「かごしま学力向上支援Webシステム」の評価問題を繰り返し活用させたりしながら、取組状況を確実に見届ける。

また、以下の事項を管理職研修会や教務主任等研修会、小中連携推進研究会等で指導し、各学校で取り組ませる。

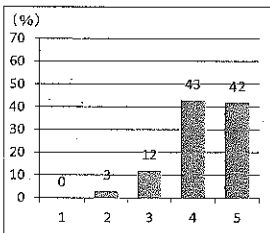
- 【小・中学校共通】 大隅終末ベネシック・大崎ティーチングポイントを踏まえた授業の実践、活用型問題に取り組む時間の確保
- 【小学校】〔国語科〕登場人物の心情や筆者の主張等を話し合う場面で、相手の意見を聞き、自分の考えを再構成させる助言方法を指導する。
- 〔算数科〕与えられた条件から問題解決のために見通しをもたせる活動、解決方法について振り返る活動を徹底させる。
- 【中学校】〔国語科〕一人学びの活動で、自分の考えをしっかりとらせるための助言方法について指導する。
- 〔数学科〕基本的な内容を確実に理解させ、技能習熟を図る。また、表やグラフ、図形を活用して解法を説明する活動を徹底させる。

【別紙様式】

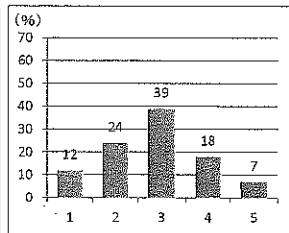
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

東串良町教育委員会

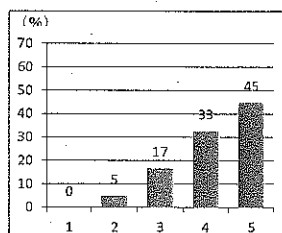
【小学校】
〔国語A〕



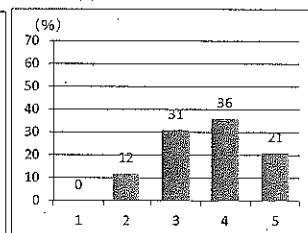
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



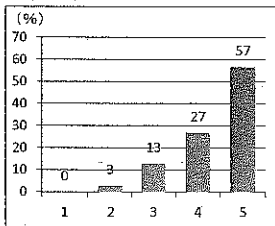
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は85%であるが、B問題では25%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを応用する力は十分ではない。
- ・目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書いたり、構成や内容を考えながら話したりすることに課題がある。
- ・文章から筆者の意図を見出したり、理由を明確にしながら自分の考えをまとめたりすることに課題がある。

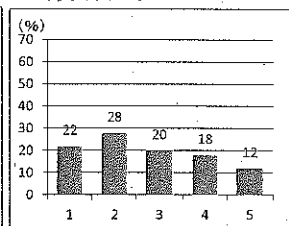
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は78%であるが、B問題では2、3段階と4、5段階の割合に差がないことから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力において二極化の傾向が見られる。
- ・本や文章などから必要な情報を読み取り、表現の仕方を考えながら自分の考えを書くことに課題がある。
- ・話の論理的な構成や展開に注意しながら聞いたり、読んだりすることに課題がある。

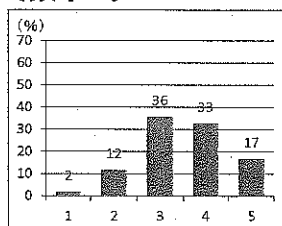
〔算数A〕



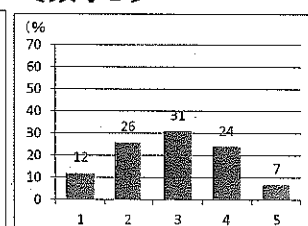
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は84%であるが、B問題は4、5段階が30%、1、2段階が50%であることから活用する力の定着が課題である。
- ・問題の文章等から、問題解決に必要な条件を見出し、図や式に表現することに課題がある。
- ・与えられた条件と既習の学習内容とを関連付けながら考えたり、その解決過程や判断の理由を言葉や式で説明したりすることに課題がある。

〈課題〉

- ・分布状況では、数学A、Bともに5段階の生徒が少なく、A問題では中位層、B問題では下位層が多い傾向が見られる。
- ・扇形の弧の長さを求めたり、数量の関係を捉えたりするなど、既習の知識や技能の定着に課題がある。
- ・問題の意味や資料の条件等を的確に捉え、解決方法や判断の理由を言葉や数式を用いて説明することに課題がある。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
- 推進校における「授業サポートプロジェクト(授業)」や町内各校の研究授業時に、本町の指導主事や(校種を超えた)各校の主任教諭等も一緒に参加するようにさせ、小中一貫カリキュラム作成と併せた9年間の系統的・重点的指導の確立を基盤とした授業づくりの支援や指導・助言を行う。
 - 個に応じた学習活動を充実させるために、「かごしま学力向上支援Webシステム(今週の一問等)」を活用するよう、各学校への指導を徹底する。
 - 定着が不十分であった問題については、分析結果に基づく補充指導を徹底させるなど、各学校でPDCAサイクルの充実が図られているか、町小中一貫教育推進会議等の場を生かして見届けまで確実に行う。

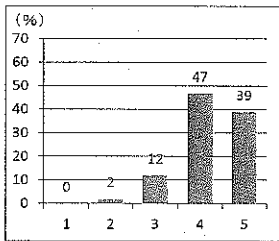
- また、以下の事項を、管理職研修会や小中一貫教育推進会議等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科)筆者の考えを解釈したり整理したりしながら、自分なりの考えを書いたり話したりする活動(機会)を充実させる。
(算数科)既習場面と照合しながら問題把握を行ったり、個々の考えを比較・関係付け・吟味したりする活動を重視させる。
 - 〔中学校〕(国語科)目的に応じて必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く活動(機会)を充実させる。
(数学科)既習場面と照合しながら問題を解釈したり、個々の考えを比較・関係付け・吟味したりする活動を重視させる。

【別紙様式】

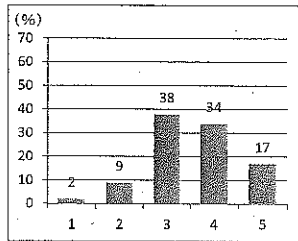
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

錦江町教育委員会

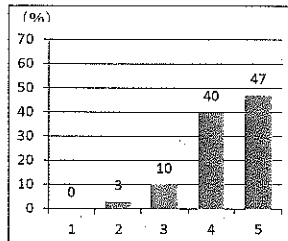
【小学校】
〔国語A〕



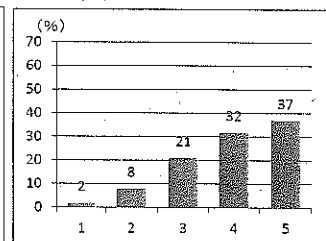
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



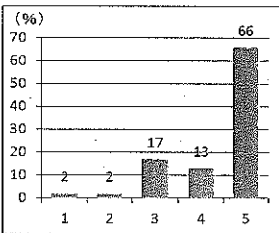
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は、86%であるが、B問題では、51%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。
・問題を深く読み込む力が不十分である。また、目的や意図を明確にして、図やグラフ等を効果的に用いながら、関連付けて自分の考えを書く活動の充実が課題である。

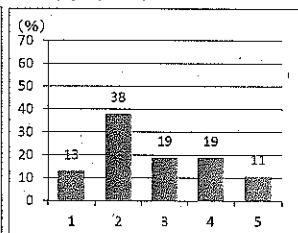
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題は4, 5段階が87%であるが、B問題は、69%であり、中位層の活用力をどのように伸ばしていくかが課題である。目的をもって、具体的に書く活動を充実していく必要がある。
・国語B問題での個人差が大きく、個々の実態に応じた指導・支援が必要である。また、無解答率も高いので、粘り強く学習に取り組む態度の育成も必要である。

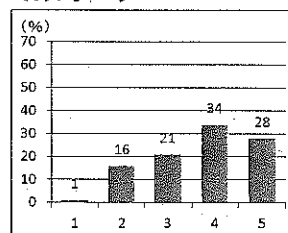
〔算数A〕



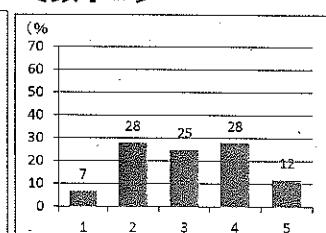
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題は4, 5段階が79%であるが、B問題では、中, 下位層が多い傾向がみられる。
・学習した基礎・基本的内容を活用して、課題解決に取り組む態度の育成が課題である。また、日常の授業において、思考過程を表す活動を十分に行う必要がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題は、4, 5段階が62%であるが、B問題では、40%と落ち込んでいる。基礎・基本で身に付けた力を活用して、課題解決に生かしていく力を育てることが課題である。
・数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりする問題については、無解答率が高いので、あきらめずに粘り強く問題に取り組む態度を育てる必要がある。

【改善策】

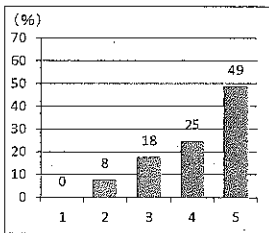
- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 日頃の授業において、児童・生徒が問題意識をもって学習活動を展開できるように、導入で学習問題などから、めあてを立てて、課題解決学習が行われるようにする。
 - 思考力・判断力・表現力育成のため、各学校に対し、「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用に関する指導を継続的に行うとともに、定着状況の把握と補充指導の充実について指導を徹底する。
 - 教職員の指導力向上を図るために、校内研修に指導主事やコアティーチャー等が参加して、授業づくりの支援や指導助言を行う際、「大隅終末ベーシック(パンフレット)」を活用し、授業づくりについての共通理解を図る。
 - 定着が不十分であった問題については、学校全体で分析を行い、課題解決のための方策を共通指導事項として取り組むように指導する。特に、以下の事項を、町内の管理職研修会や各種研修会等で指導する。
- 〔小学校〕(国語)問題文や叙述を正しく読み取り、自分の考えをしっかりともった上で、友達との意見(考え方)の違いに触れさせ、多様な言語感覚やことばの力を豊かにする。
- (算数)身に付けた知識・技能を生かす活動を設定し、思考を深める場や手立ての工夫をする。
- 〔中学校〕(国語)主体的な学びの方法を工夫させるとともに、自分の考えを論理的にまとめる指導を行う。
- (数学)自分の考えを、数・式・図等で捉え、数学的に自分の言葉で説明できる指導を行う。

【別紙様式】

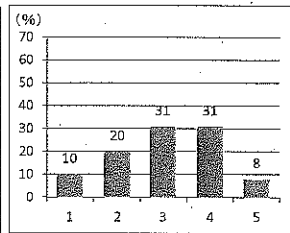
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南大隅町教育委員会

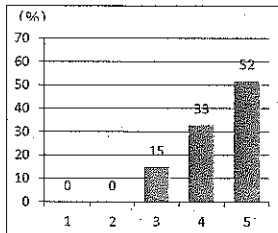
【小学校】
〔国語A〕



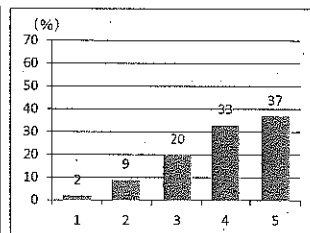
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



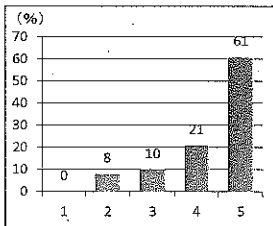
〈課題〉

- 5段階の分布状況は、国語Aについては、4段階、5段階の児童が7割を超え既習内容が定着している状況にある。国語Bについては、3段階、4段階の児童が多い傾向が見られる。さらなる定着のため指導の充実を図る必要がある。
- 手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛名のそれぞれの位置(手紙の構成)について適切なものを選択することに課題がある。

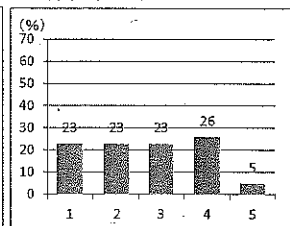
〈課題〉

- 5段階の分布状況は、国語Aについては、4段階、5段階の児童が8割5分を超えおおむね定着している状況にある。国語Bについても、4段階、5段階の児童が多い傾向が見られ、さらなる定着のため指導の充実を図る必要がある。
- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することや、相手に分かりやすいように語句を選択することに課題がある。

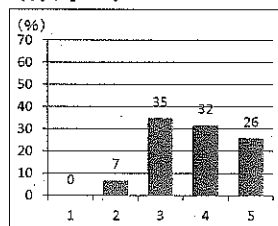
〔算数A〕



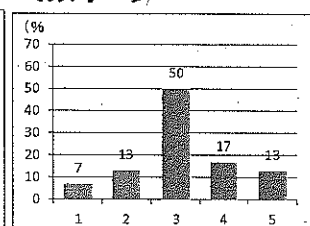
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- 5段階の分布状況は、算数Aについては、4段階・5段階の児童が8割を超え学習内容が定着している状況にある。算数Bについては、1～4段階の児童が多い傾向が見られる。思考力・判断力の定着が不十分な児童への指導の充実を図る必要がある。
- 身近なものに置き換えた基準量と割合をもとに、比較量を判断しその判断の理由を記述することに課題がある。

〈課題〉

- 5段階の分布状況は、数学Aについては、3段階、4段階の生徒が最も多く、さらに既習内容の定着を図る必要がある。数学Bについては、3段階の生徒が多い傾向にあり、さらなる定着のために指導の充実を図る必要がある。
- 与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることや、関数の意味を理解することに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の重点としていく。

〔小学校〕(国語科)・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く指導の充実を図る。
 ・複数の文章を関係付けてまとめを書かせたり、それを交流させたりする指導の充実を図る。

(算数科)・問題に示された2つの数量の関係を一般化して捉え、その決まりを記述できるようにする指導の充実を図る。
 ・身近なものに置き換えた基準量と割合をもとに、比較量を判断し、その判断の理由を記述する指導の充実を図る。

〔中学校〕(国語科)・文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする指導の充実を図る。
 ・複数の資料から情報を読み取らせる指導の充実、それらを文脈で適切に使わせる指導の充実を図る。

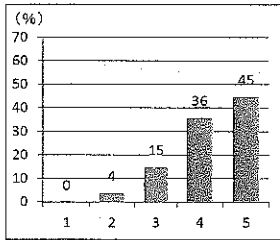
(数学科)・関数の意味や与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解させる指導の充実を図る。
 ・二つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する指導の充実を図る。

【別紙様式】

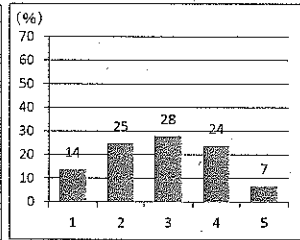
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

肝付町教育委員会

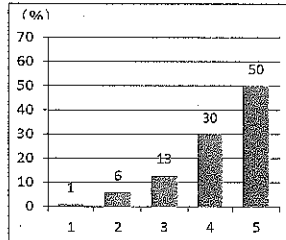
【小学校】
〔国語A〕



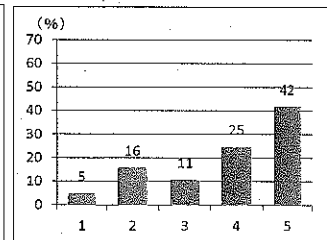
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



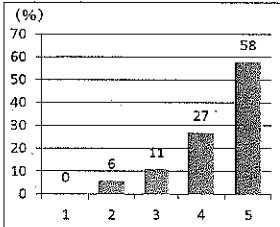
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は81%であるが、B問題では31%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力が十分ではない。
・根拠を明確にして感じたことや考えたことを書くことに課題がある。

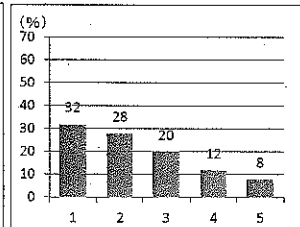
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は80%であり、B問題68%であることから、基礎・基本、活用はある程度身に付いている。
ただ、段階2の生徒が16%おり、活用が不十分な生徒の効果的な指導を行なう必要がある。
・根拠を明確にして感じたことや考えたことを書くことに課題がある。また、条件にそって文章を書くことにも課題がある。

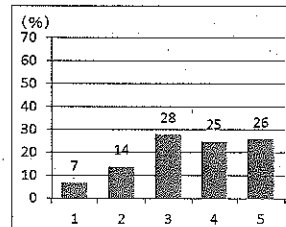
〔算数A〕



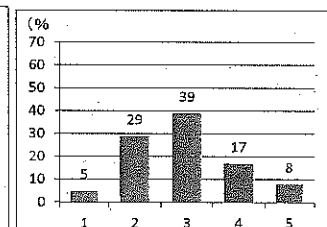
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況から、A問題では4、5段階は85%であるが、B問題では、20%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力が十分ではない。
・日常生活の事象を割合を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、判断した理由を数学的に表現したりすることに課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況から、基礎・基本及び活用する力とも十分定着していない。
・与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解すること、度数分布表から相対度数求めること、錯角の意味についての理解が十分ではない。
・二つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する力が十分付いていない。

【改善策】

- 今後、以下示す事項について、本町の学力向上対策の実施の重点として取り扱うようにしていく。
- 大隅終末ベーシックを活用した授業設計を推進し、めあてととまめに整合性のある授業を行わせる。
 - 推進校における「授業サポートプロジェクト」に各校の担当者を積極的に参加させ、授業作りについての継続的な指導を行う。
 - 町学力向上対策委員会において、小・中合同で条件にそった文章を書く学習を重視し授業を設計を行い各校で実践を行う。

また、以下の事項を、管理職研修会等で指導し、各校に取り組ませる。

〔小学校〕(国語科) ・聞き手に対して根拠を明確にして感じたことや考えたことを伝える学習(ペア、グループでの学習)
(算数科) ・日常の事象の解決に、割合や単位量あたりの大きさを活用して、問題を解決する学習の充実

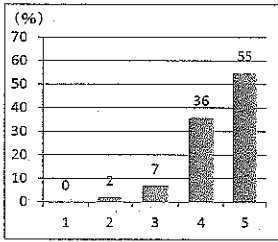
〔中学校〕(国語科) ・キーワードを抜き出し、キーワード同士の関係を整理して文章の内容や筆者の意見を読み取る学習の充実
(数学科) ・授業の中で式変形に用いられている等式の性質について、確認する場面の設定

【別紙様式】

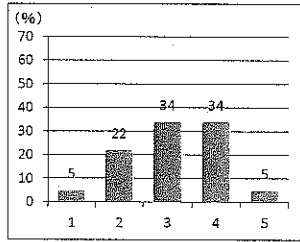
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

西之表市教育委員会

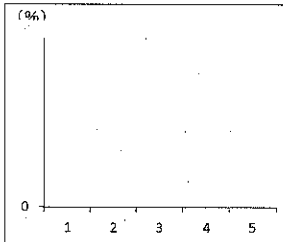
【小学校】
〔国語A〕



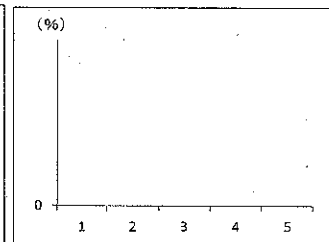
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕

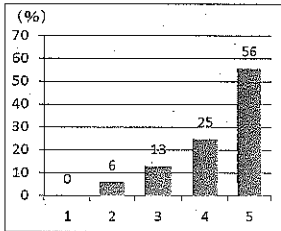


〈課題〉

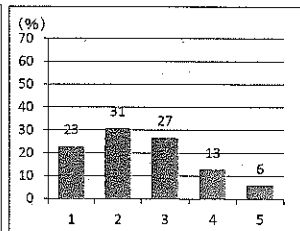
・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は91. 2%, B問題の4, 5段階は38. 9%であることから、基礎・基本は定着している状況であるが、活用する力はまだ不十分である。
・目的や意図に応じて、文章の構成に気を付けながら自分の考えを整理して書くことに課題がある。

〈課題〉

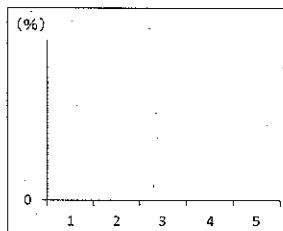
〔算数A〕



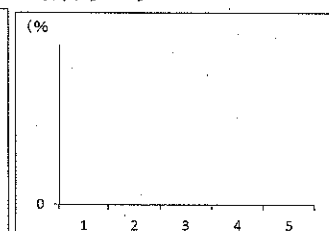
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は81%で基礎・基本は定着している状況であるが、B問題の1, 2, 3段階も81%であり、中・下位層の活用する力を伸ばしていくことが課題である。
・底辺の長さと高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形の面積の関係を理解することに課題がある。
・長さやかさ、重さのそれぞれの量における任意単位による測定に課題がある。

〈課題〉

【改善策】

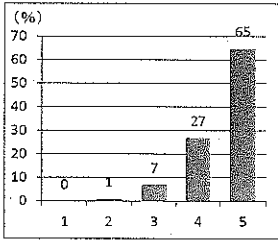
今後、本市の学力向上に向けて、次の事項に取り組んでいく。
○ 各学校における本調査の分析結果と課題解決に向けた具体的な取組を把握するとともに、各学校の課題解決に向けた取組の進捗状況の確認と指導・助言を行う。
○ 指導主事が校内研修等へ積極的に参加し、管理職とともに指導・助言を行うことで、教師個々の授業力の向上と授業改善に取り組む。
○ 「活用する力」を育成するために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を積極的に活用するよう各学校に指導していくとともに、有効活用している学校の取組情報を提供していく。また、以下の事項を管理職研修会や校内研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
〔小学校〕〔国語科〕目的や意図に応じて書く内容の情報を収集・整理したり、指定された字数で自分の考えを書いたりする活動を取り入れる。
〔算数科〕図形の性質についての理解を深めるために、図形をかいたり、作ったりする算数的活動の充実を図る。
量と測定の指導においては、直接比較、間接比較、任意単位による測定、普遍単位による測定という段階を踏まえた指導の充実を図る。

【別紙様式】

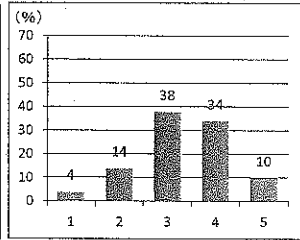
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

中種子町教育委員会

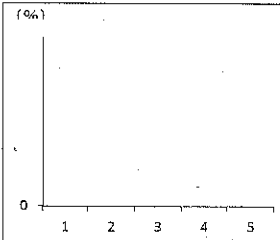
【小学校】
〔国語A〕



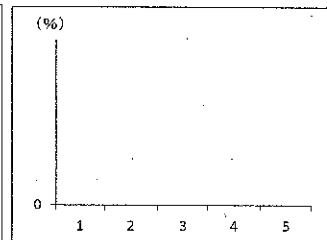
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕

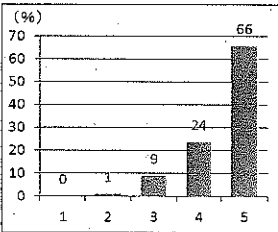


〈課題〉

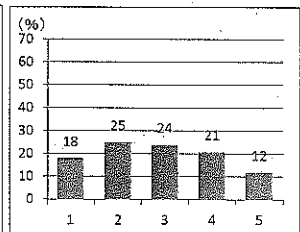
・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階の割合は92%であるが、B問題については44%であり、昨年度と比較すると3段階の方に移動している。3、4段階のグループを少しでも4、5段階に高めることが課題である。
・B問題の条件に基づいて文章を書く問題や発言者の意図を正確に読み取る問題の通過率が低いので、正しく読みとり理解した上で、適切に表現することが課題である。

〈課題〉

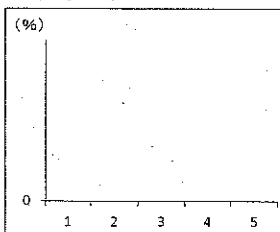
〔算数A〕



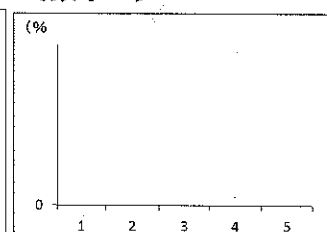
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階の割合は90%であるが、B問題については33%、1、2段階は43%であり、活用する力は十分であるとは言えない。
・必要事項を落とさずに考え方を説明したり、仮の平均の考えを活用して測定値の平均を求めたりする問題、与えられた情報から関係を捉え判断する問題等の通過率が低い。無答率は高くないので、大切な言葉を落とさずに、論理的に説明をしたり、与えられた情報を利用して問題を解決したりすることが課題である。

〈課題〉

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 問題レベルでの分析を行い、その結果を全職員で共有するとともに、通過率が低かった問題については、補充指導の徹底や授業の中での取組についての検討・改善を行わせるなど、各学校でPDCAサイクルの充実が図られるよう、見届けを確実にを行う。
 - 継続的な学校訪問を通して、「授業参観の視点」や「ゴールや方法の明確化」等に基づく授業づくりの支援や指導・助言を行う。
 - 全体的なレベルアップを図るために「かごしま学力向上支援Webシステム」の計画的かつ継続的な活用を推進するよう、各学校への指導を徹底する。
 - 小規模校の交流学習を推進し、多様な意見・考え方に触れたり、自分の考えをまとめて表現したりする機会を設定するとともに、成果と課題の集約を行い、実施方法や内容についての改善を推進する。

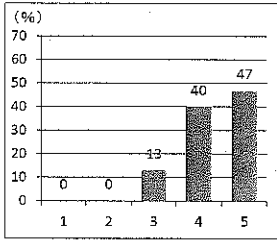
また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各学校で取り組ませる。
〔小学校〕(国語科) 的確に読み取り、大切な言葉を落とさずに適切に表現する活動に取り組ませる。
(算数科) 数字の意味や式の意味を確実に押さえて、考えを説明する活動を徹底させる。また、与えられた情報をもとに見出した関係性を用いて問題を解決する活動に取り組ませる。

【別紙様式】

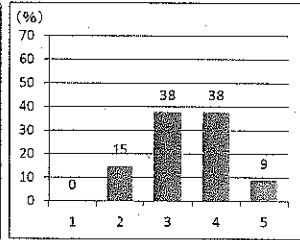
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南種子町教育委員会

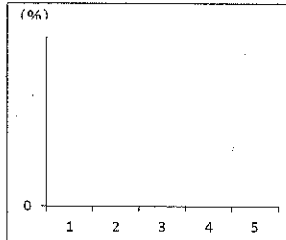
【小学校】
〔国語A〕



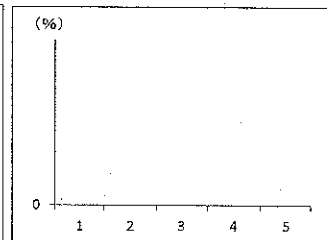
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



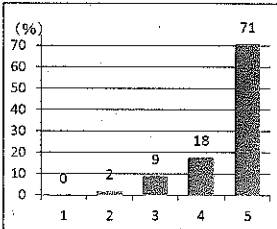
〈課題〉

【国語A: 主として知識】
全体の87%が4と5の段階に属しており、概ね学習内容を理解できている児童が多い。手紙の後付けを書く問題や俳句の情景をとらえる問題等について正答率が低い問題があった。

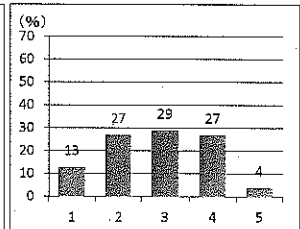
【国語B: 主として活用】
全般的に書く領域について全国平均を下回っている問題が多く見られた。特に、目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことについては正答率は22.2%だった。

〈課題〉

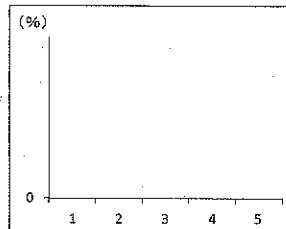
〔算数A〕



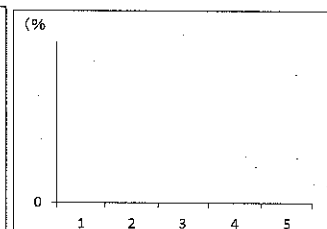
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

【算数A: 主として知識】
全体の70%以上が5の段階(12~15問正解)に属しており、概ね理解できている児童が多い。数と計算の領域に、全国平均を下回っている問題が多い。商を分数で表す問題は、全国平均と10%以上も差があった。

【算数B: 主として活用】
全体の40%が1や2の段階(0~4問)に属している。特に数学的な考え方を問う記述式の問題につまずきが多く見られた。

〈課題〉

【改善策】

【今後の本町における学力量上の重点施策】

- 各学校における「こだわりの視点」を軸にした授業力量向上に向けての実践の充実を図る。
- 学力検査の誤答傾向(無解答の傾向)について分析し、「あと1問」正答数を増やすために、授業や家庭学習において習熟の場を設定する。
- 子供たちが十分に実力を発揮することができるよう、全国学力学習状況調査や鹿児島県学習定着度調査の過去問題、かこしま学力量向上支援Webシステムの適用問題等の効果的な活用を図る。

【国語科における改善策】

- 言語事項(特に漢字)については、家庭学習なども活用しながら定期的に振り返る場を設定し習熟を図る。
- 手紙の書き方や、俳句の創作活動などについて、日常的な学習活動の中に取り入れ基本的な書き方やそれぞれの活動のよさに触れる場を設定する。
- 国語科だけでなく、他教科においても言語活動を積極的に取り入れ、目的や意図に応じて考えたことを説明したり、文章に表したりする機会を十分に設ける。

【算数科・数学科における改善策】

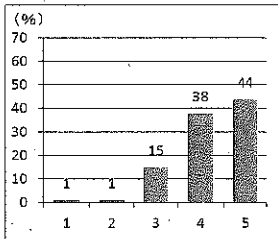
- 本年度作成した、小1から中3までの算数・数学関数領域における系統表なども活用しながら、子供たちのつまずきに応じて個別支援の充実を図る。
- 理解したことを言葉で書いたり、友達に説明したりする活動を通して、学力のより確実な定着を目指す。

【別紙様式】

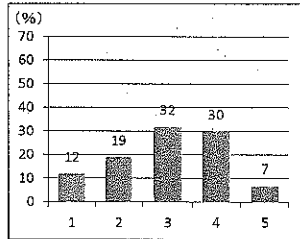
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

屋久島町教育委員会

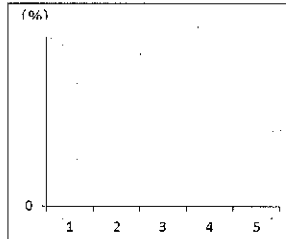
【小学校】
〔国語A〕



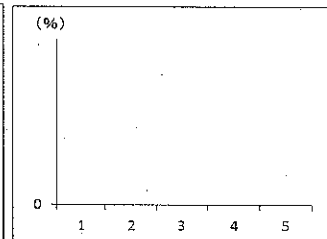
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕

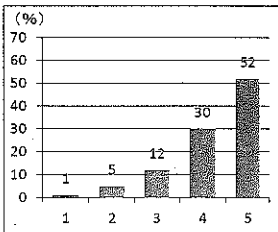


〈課題〉

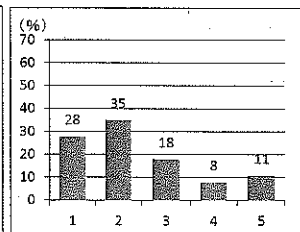
- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は82%であるが、B問題では37%であることから、基礎・基本は、身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。
- ・ 思考力を働かせて目的や意図に応じて自分の考えを整理して書いたり、グラフを基に分かったことを的確に書いたりすることに課題がある。

〈課題〉

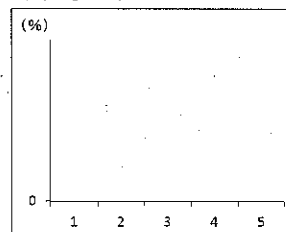
〔算数A〕



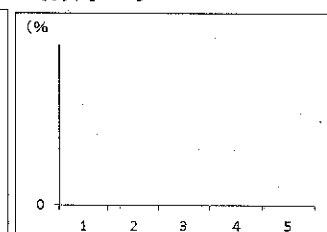
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・ 算数Aでは5の段階の児童が5割強を占める。Bでは5の段階の児童は11%と極端に少なく、1、2で63%を占めるなど下位層が多い傾向が見られ昨年より下位層の増加が見られる。
- ・ 思考力をとおして示された式や説明、図、グラフ等を読み取って自分の考えをもとに判断する力やその根拠や理由を筋道立てて記述したりする力に課題がある。

〈課題〉

【改善策】

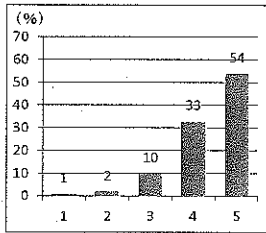
- ※ 各学校に正答率、無回答率、誤答傾向等の分析をしっかりと行わせ、実態の把握と重点課題を明確にさせる。
- ※ 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
 - 校内研修、研究授業等において、本町の指導主事やコアティーチャーも活用し、継続的な学校訪問を通じた授業づくりの支援や指導・助言を行うとともに近隣の中学校の交流を通して研修を深める。
 - 二極化が進んでおり下位層や中位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるために「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用について、各学校への指導を徹底する。
 - 以下の事項を管理職研修会や各学校における研修会等で指導し、取り組ませる。また、各学校でPDCAサイクルの充実が図られているか、見届けまで確実に行う。
 - ・ 目当てとまとめの結びつきなど授業の基本的な再確認と徹底を図る。(授業力向上が学力向上に結びつく)
 - ・ 基礎的・基本的な知識及び技能の反復練習の充実 (基礎学力の定着(「こだわりの視点」)の共通実践)
 - ・ 全職員が納得して、徹底して取り組む視点を設定する。〔組織的、継続的な実践〕
 - ・ ゴール(長期)と段階的な数値目標(短期・中期)を設定する。〔達成目標の設定〕
 - ・ 定期的に評価し、改善を図る。〔PDCAサイクルにおける実践〕
 - ・ 中学校区ごとに基本的学習習慣系統表を活用させ、学習の基盤づくりを徹底する。
 - ・ 「授業を見る視点」を積極的に活用させ、分かる・楽しい授業の実践化を図る。(校内研修、学校訪問での指導)
 - ・ 「活用」に関する過去問題をピックアップし、定期的・継続的に取り組ませ、活用問題に慣れさせていく。
- 【小学校】(国語科) 自分の考えや伝えたいことを整理して書く活動や漢字の書き取りなど習慣化と定着を図る。
(算数科) 思考力を活用して問題解決の過程を説明し表現する活動を意図的に位置付けさせる。

【別紙様式】

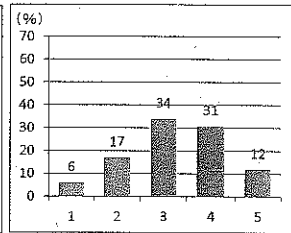
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

奄美市教育委員会

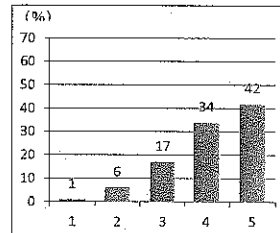
【小学校】
〔国語A〕



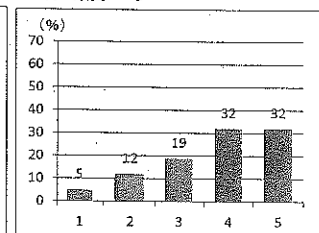
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



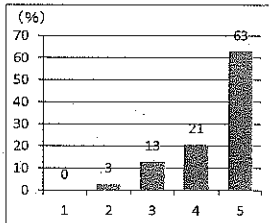
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、A問題の4, 5段階は87%であるが、B問題では43%となっており、知識はありながらも、活用することについては、まだ不十分な児童がいる。
- ・ 文章を読んだ後、自分の考えを根拠や理由を明確にしてまとめることが課題である。

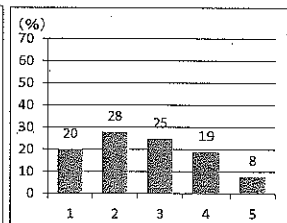
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、A問題の4, 5段階は76%であるが、B問題では64%と低く、学習事項を活用できていない。
- ・ B問題では、記述式の問題に対して無解答率が高い。文章の表現に対する自分の考えをまとめたり、理由を根拠と見通しをもった上でまとめたりする学習を進めていく必要がある。

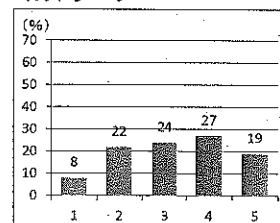
〔算数A〕



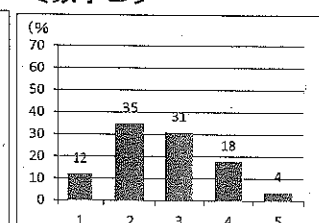
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、A問題の4, 5段階は84%であるが、B問題では27%と大きく低下している。B問題の上位層が国語よりも下回っており、下位層がかなり多いことから、上位層の児童の数を伸ばす必要がある。
- ・ 計算や表・グラフの問題、平均値を求める問題に対して、苦手意識をもつ児童がいる。

〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、A問題の4, 5段階は46%と過半数を切る状況である。また、B問題の4, 5段階は22%であり、学習事項を定着させる取組が急務である。
- ・ 「数と式」や「関数」の領域が特に正答率が低い。また、表やグラフを活用した説明や、証明などの記述式の問題における無解答率が高い。

【改善策】

○ 指導主事の定期的な学校訪問等を通して、授業改善に向けて具体的・重点的な指導を実施する。各学校における課題解決のための具体的な方策がどの程度実施されているかを的確に把握できるようにする。その際、本市の「学力向上対策・授業改善5つの方策」を確実に実践させるとともに、以下について各学校に取り組ませる。

〔小学校〕

- 〔国語科〕
 - ・ 学ぶことの目的意識をもたせる学習課題の設定と課題解決に必要な思考・表現活動の実施
 - ・ 自分で考えたことを伝えたり、話し合ったりする相互解決の場の確保と自分の言葉によるまとめの実施
 - ・ 漢字やローマ字の読み書き等、基礎・基本の確実な定着と習熟を図るための時間の設定
- 〔算数科〕
 - ・ 文章や絵図を使って、自分で考えたことをまとめ、算数的言語を使って説明する活動の重視
 - ・ 机間指導の充実による個々の状況の把握と学習のまとめ及び見届けの確実な実施

〔中学校〕

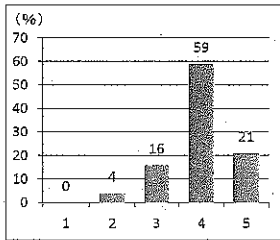
- 〔国語科〕
 - ・ 情報を的確に読み取り、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる活動の設定と確実な実施
 - ・ 基礎・基本を確実に定着させるための指導の充実と習熟を図るための時間の確保
- 〔数学科〕
 - ・ 学ぶことの目的意識をもたせる学習課題の設定と基礎・基本の確実な定着を図る繰り返し学習の実施
 - ・ 自力解決や相互解決における判断の根拠や理由を明確にし、数学的な表現を用いて説明する活動の設定

【別紙様式】

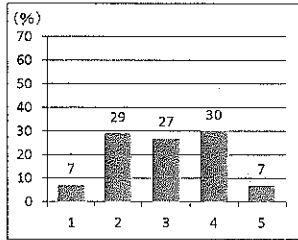
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

瀬戸内町教育委員会

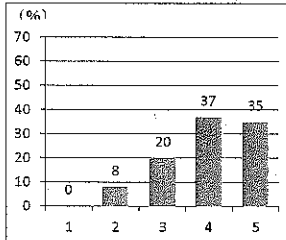
【小学校】
〔国語A〕



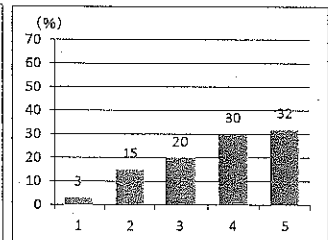
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



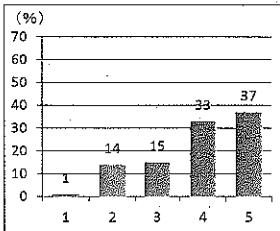
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では5の段階の児童がやや少ないが、概ね基礎・基本の定着が見られる状況である。B問題では、2、3の段階の児童が多く、活用する力が不十分である。
- ・A問題では、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことや目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むことが課題である。
- ・B問題では、目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えたり、必要な内容を整理したりして書くことが課題である。

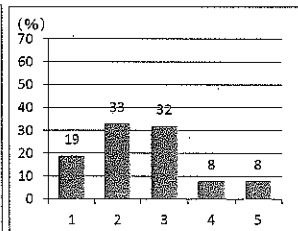
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題、B問題ともに2、3の段階の生徒がやや多く、基礎・基本及び活用する力、ともに定着が不十分である。
- ・A問題では、事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話すことや話すための材料を人との交流を通して集めること、文章に表されているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くすることが課題である。
- ・B問題では、表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことや話の論理的な構成や展開などに注意して書くことが課題である。

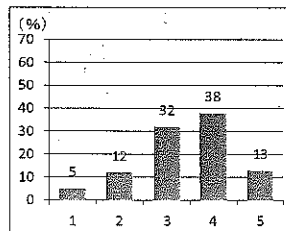
〔算数A〕



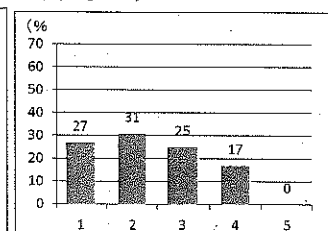
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では2、3の段階の児童がやや多く、基礎・基本の定着が不十分な状況である。B問題では、1～3の段階の児童の割合が8割以上を占めており、活用する力が定着していない。
- ・A問題では、加法と乗法の混じった整数と小数の計算をすることや商を分数で表すことができていない。
- ・B問題では、問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、その決まりを記述することや仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することが課題である。

〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では1～3の段階の生徒が約半数おり、基礎・基本の定着が不十分である。B問題では、1～3の生徒が約8割をしめており、活用する力が定着していない。
- ・A問題では、錯角や関数の意味の理解、与えられた度数分布表について、ある段階の相対度数を求めることが課題である。
- ・B問題では、筋道を立てて考え、証明することや付加された条件の下で、図形の性質を用いることが課題である。

【改善策】

今後は、以下の示す事項について、本町の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

- 各学校において、テストの結果を十分分析させるとともに、児童生徒の実態をしっかり捉えさせ、補充指導の徹底、各校で策定している「学力向上アクションプラン」の見直しや地区で推進している「授業充実の3ポイント」の徹底をさらに進め、学力向上への全校体制での実効性ある取組の具体策を検討させた上で、共通実践事項の見届けを確実にに行わせる。
- 年間を通じた校内研修における研究授業の機会も含め、より積極的に質の高い授業づくりへの指導・助言を継続的に行う。
- 各教科における基礎的・基本的事項の確実な定着も視野に入れつつ、「かごしま学力向上支援Webシステム」や各校に配備した学習ソフトの積極的活用を継続的に指導していく。特に、活用問題についても繰り返し練習をさせ、見届けます。

また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各学校で取り組ませる。

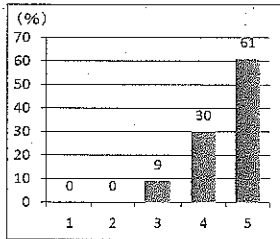
- (小学校国語科) 学年別漢字配当表に示された漢字の繰り返し練習の場や目的に応じた文章を書く活動の設定。
- (小学校算数科) 四則計算の混じった計算の練習や数量の関係を一般化し、その決まりを説明するような学習場面の設定。
- (中学校国語科) 人との交流を通して自分の考えを広げたり、論理的な構成や展開に注意して聞いたりする学習場面の設定。
- (中学校数学科) 数量や図形などについての基本的な事項の定着の場や、筋道を立てて考え、証明していく学習場面の設定。

【別紙様式】

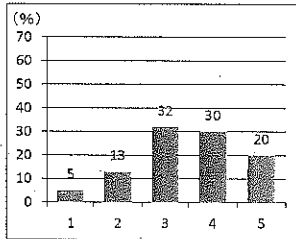
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

龍郷町教育委員会

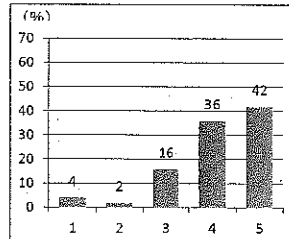
【小学校】
〔国語A〕



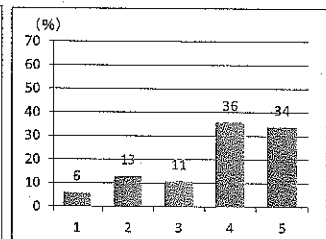
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



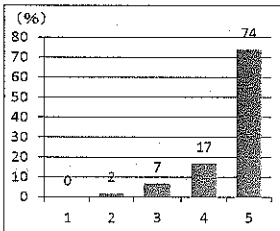
〈課題〉

・5段階の分布状況について、昨年度よりもA・B問題ともに5段階の割合が高くなってきている。特にA問題では4・5段階で91%となっており基礎・基本内容の定着が図られているといえる。
・A・B問題とも「書くこと」の領域の正答率が低く、手紙などの形式的な書き方や目的に応じて必要な内容を整理するところに課題がある。

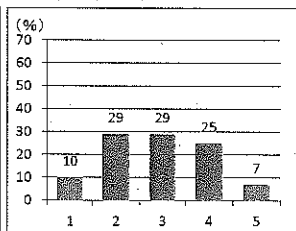
〈課題〉

・5段階の分布状況について、昨年度A問題は4段階、Bは、問題は3段階にあった山が、A問題は5段階、B問題は4段階に推移していることから全体的に向上している。
・A・B問題とも、助言をもとに自分の表現を見直す、アンケートで何を尋ねるべきか見直しをもつ、表現の仕方について自分の考えをもつなど、「書くこと」「読むこと」に課題がある。

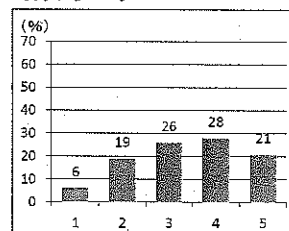
〔算数A〕



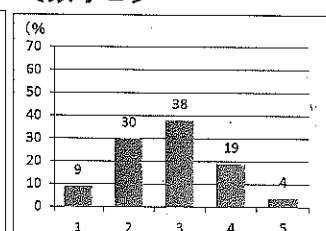
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題については昨年度よりも5段階が70%に増え、2～4段階が減っていることから全体的な底上げができてきている。ただし、B問題においては、1・2といった下位層の児童が依然として多く、基礎的な内容を活用できていない状況がある。
・数量の関係を捉え、それを式に表す、問題場面に適用する、判断した理由を述べるなどに課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題・B問題ともに山が3段階や4段階に推移していることから向上は図られているものの、依然として下位層の割合が高い状況となっている。
・A・B問題ともに、「数と式」「関数」領域が全国・県との開きが大きくなっている。特に、一次方程式や数学的事象を解釈したり、説明したりするところの無解答率が高く課題となっている。

【改善策】

小学校は、国語、算数ともに平均正答率が全国・県を上回っているものの、中学校では平均正答率が下回り差が開いている状況である。また、小中の課題となる内容が共通しており、本町の教科部会を中心に小中連携を図りながら系統的な底上げを図る必要がある。よって、以下に示す事項について、今後の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

〔国語〕

授業において「書く・表現する」活動を取り入れた指導を充実し、小中それぞれ次のことに取り組んでいく。

・小学校では、手紙・はがきなど日常生活との関連を図ったり、書いたこと・表現したことを見直したりしながら、形式や表現力を高める指導を充実させていく。

・中学校では、伝えたい事柄を明確にしなが、用いた表現の理由や構成について自分なりの考えをもちながら取り組ませる活動を充実させていく。

〔算数・数学〕

小学校時期の課題が中学校の課題につながっている傾向がある。町全体として、かごしま学力向上支援webシステムの評価問題を活用したり、町独自の問題を作成したり、「数と式」「関数」において重点的に取り組む。

〔全体〕

本町の学力向上の研究主題にある「考える視点」を大切にした授業づくりについて、再周知・徹底を図る。

・学習課題の設定・提示の工夫がなされた「問い」をもたせる導入に努めさせる。

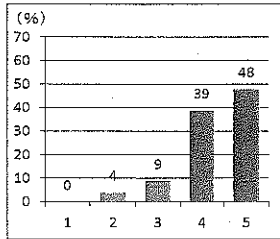
・児童生徒が、目的やねらい、自分なりの理由や根拠をもった学び合いが充実されるようにする。

【別紙様式】

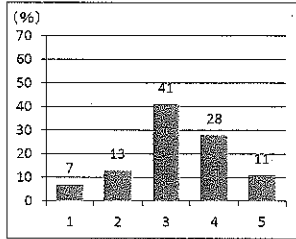
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

喜界町教育委員会

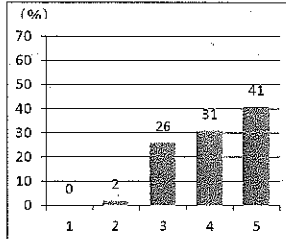
【小学校】
〔国語A〕



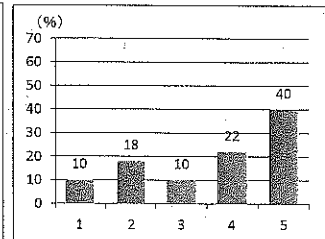
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



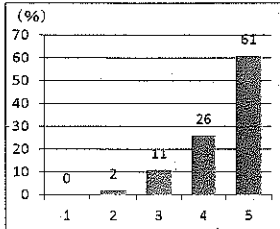
〈課題〉

・5段階分布状況についてA問題の4, 5段階は87%であるが, B問題では39%であることから, 基礎・基本は身に付いているが, それらを活用する力が十分でない。
・目的や意図に応じて引用したり, 必要な情報を整理して書いたりするなど, 与えられた条件に応じて適切に考えを整理したり, 文章を構成したりすることに課題がある。

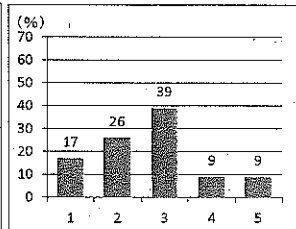
〈課題〉

・A問題に比較し, B問題は分布のばらつきが見られ, 下位層の分布も多くなっていることから, 生徒によって定着に大きな差があることが課題である。
・相手の考えの意図を汲み取って書いたり, 話したりするなど, 相手を意識した思考や表現に課題がある。

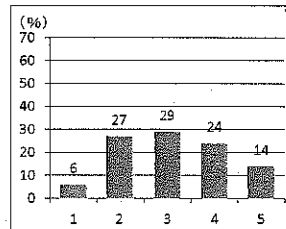
〔算数A〕



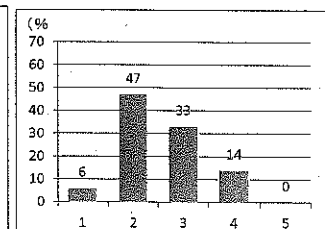
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階分布状況についてA問題の4, 5段階は87%であるが, B問題では18%であり, 1, 2段階の割合も多くなっていることから, 基礎・基本は身に付いているが, それらを活用する力が十分でない。
・数量の関係を一般化して捉えたり, 数量の関係を判断した理由について記述したりすることに課題がある。

〈課題〉

・A問題, B問題ともに下位層の割合が多い。特に, B問題では, 5段階の割合が0であり, 基礎・基本及び活用する力とも十分に定着していないことが課題である。
・無解答率が高いことが課題である。特に, 説明したり, 証明したりするなど, 数学的に表現する問題について無解答率が高い。

【改善策】

今後, 以下に示す事項について, 本町の学力向上施策実施の重点として取り扱う。

- 毎時間の授業の教材研究を効率的に行い, 充実させるために, 日常の授業づくりから積極的に関わる。
- 主体的, 対話的で深い学びのある授業が各学校で実現されるように, 各学校のアクションプランで掲げられている重点事項が全教諭に徹底されているか定期的に授業を参観し, 授業参観シートを活用して指導を徹底する。
- 定着が不十分であった問題については, 単元終了ごとに過去問や「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用した補充指導を徹底させ, 定着状況を把握し, 授業改善や個別指導に生かすなど, 各学校でPDCAのサイクルが図られているか定期的な見届けを行う。

また, 以下の事項を, 管理職研修会や町教科等部会等で指導し, 各学校で取り組ませる。

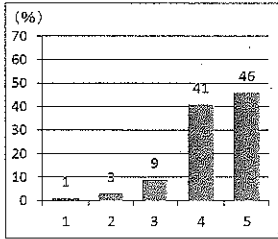
- 【小学校】 (国語科) 目的や意図に応じて自分の考えを適切に表現する言語活動を充実させた授業ができるように助言する。
(算数科) 理由や根拠を適切に表現する活動を徹底させる。
- 【中学校】 (国語科) 目的や意図に応じて自分の考えを適切に表現する言語活動を充実させた授業ができるように助言する。
(数学科) 数, 式, グラフ等の相互の関係を考えたり, 説明したりする授業ができるように助言する。

【別紙様式】

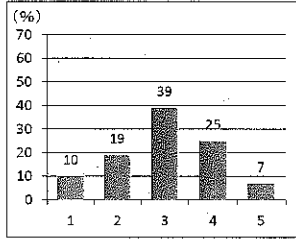
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

徳之島町教育委員会

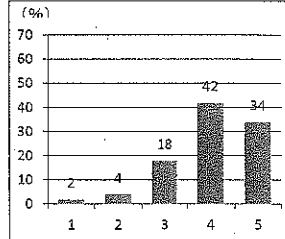
【小学校】
〔国語A〕



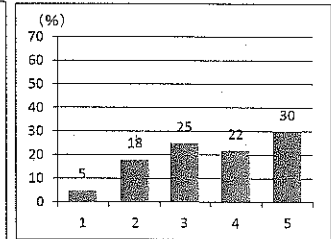
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



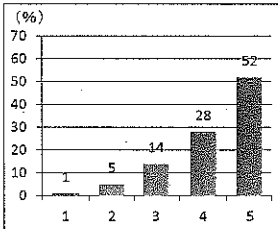
〈課題〉

・国語Aは、上位層(4, 5)が87%と多く、基礎的・基本的な学習内容の定着は概ね良好といえる。
・国語Bでは、無解答率も低くなり改善の傾向はあるものの、依然として、自分の考えを書くことに課題がある。(児童の質問紙法からもこの傾向は読み取れる。)書く活動を授業に位置付ける必要がある。

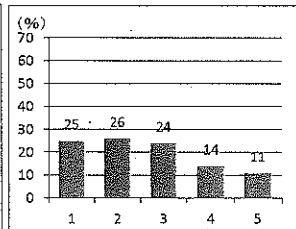
〈課題〉

・国語Aは、上位層(4, 5)が76%を締めており、基礎的・基本的な学習内容の定着は概ね良好といえる。
・国語Bでは、下、中位層(1, 2, 3)が48%, 上位層(4, 5)が52%とほぼ同じ割合にあるため、2つの層を効果的に伸ばしていく指導が必要である。
・特に、比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く等の問題に課題がある。

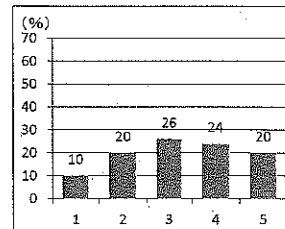
〔算数A〕



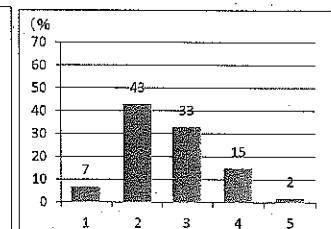
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・算数Aは、上位層(4, 5)が80%と多く、基礎的・基本的な学習内容の定着は概ね良好といえる。
・算数Bでは、下、中位層(1, 2, 3)が75%を締めており、下、中位層に対する効果的な指導が必要である。
・特に、示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶことに課題がある。

〈課題〉

・数学Aでは、中、上位層(3, 4, 5)の割合が70%, 下位層(1, 2)も30%であることから、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るためには2つの層に対する指導を効果的にする必要がある。
・数学Bでは、下位層が多く、上位層が少ない傾向にあるため、下位層の底上げと上位層を伸ばす指導を行う必要がある。
・特に、図形領域を扱った問題に課題がある。

【改善策】

〔共通〕

- 授業充実の3ポイント(目標の明確化、山場の設定、確実な見届け)の日常化
- 山場を充実させるための①主体的で効果的な目標設定、②リブライジングを含めた教師の効果的な発問、問い返し、聴き取り等の指導法の定着、③書く活動の日常化(めあてとまとめを子供自身の言葉で)
- 授業と連動した家庭学習の充実と中学校区ごとの家庭学習強調週間の実施
- 学習習慣系統表を基にした小中9か年間を見通した指導の充実
- 過去問の活用と問題の解き方指導の充実

〔授業において〕

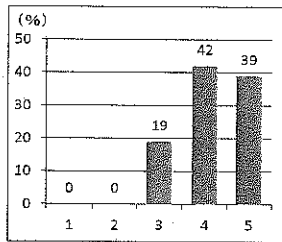
- 1 まとめで児童生徒に何を言わせたいか教師が強クイメージし、まとめから授業をデザインする。
- 2 終末定着の時間10分確保による3ポイントの精選と充実を図る。
- 3 視点を明確にし、代案作りをゴールとする授業研究会を実施する。

【別紙様式】

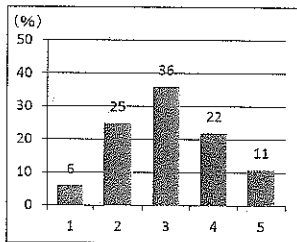
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

天城町教育委員会

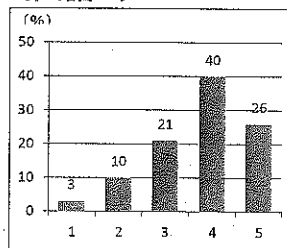
【小学校】
〔国語A〕



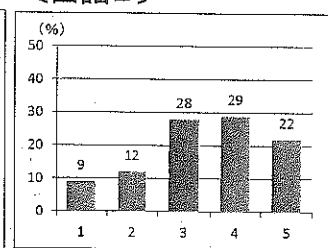
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



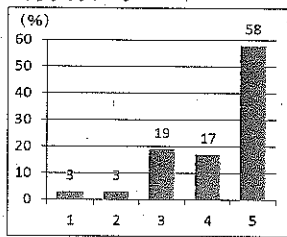
〈課題〉

・5段階分布において、A問題の4、5の段階が81%であり、8割以上を占めていることから、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1～3の段階が67%であり、半数以上を占めていることから、4の段階以上へ向けて活用する力の定着が求められる。
・特に、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読むことに課題が見られる。

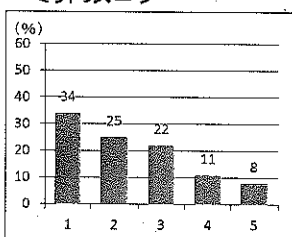
〈課題〉

・5段階分布において、A問題の4の段階が40%であり、半数近くを占めていることから、1～3の段階の補充指導とともに、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1～3の段階が49%であり、ほぼ半数を占めていることから、4、5の段階へ向けて活用する力の定着が求められる。
・特に、文章の構成や表現の仕方に着目して、自分の考えを具体的に書くことに課題が見られる。

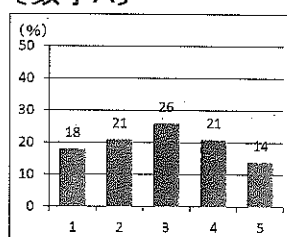
〔算数A〕



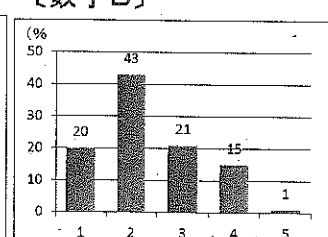
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階分布において、A問題の4、5の段階が75%であり、半数以上を占めていることから、1～3の段階の基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1、2の段階が59%であり、半数以上を占めていることから、3の段階以上へ向けて活用する力の定着が求められる。
・特に、資料から二次元表の合計欄に入る数を求めることに課題が見られる。

〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5の段階が35%であり、半数に満たないことから、4、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1～3の段階が84%であることから、4、5の段階へ向けて活用する力の定着が求められる。
・特に、数量の関係を文字式で表したり、文字を用いた説明を読み取ったりすることに課題が見られる。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- P・「アクションプラン」や「各校の学力向上策」の進捗状況について、指導主事が継続的に学校訪問し、支援や指導・助言を行う。
- D・「授業充実の3ポイント」や「天城町授業づくりの目」を基にした授業について、指導主事が町教委訪問や校内研修等で指導・助言を行う。
- C・「かごしま学力向上支援Webシステム」等、学力がどれだけ定着したかを点検する調査問題を実施し、その結果を学校と教育委員会と共有する。
- A・調査問題を経て、より学校の実態を踏まえた策とは何かを吟味し、「アクションプラン」や「各校の学力向上策」に反映させる。

また、以下の事項を、管理職研修会や学力向上委員会等で指導し、各学校に取り組ませる。

〔小学校〕(国語科) 学習中の活動の目的を明確にし、そこで学び得たことを共有する指導を行う。

・(算数科) 子供が実際の経験を伴って思考したり、疑問や矛盾を自由に表現したりする機会を確保する。

〔中学校〕(国語科) 何を解決するため、誰に伝えるための課題なのかを明確にし、多様な考えの中から、自分の考えを選択する機会を確保する。

・(数学科) 課題を解決して終わりではなく、なぜその考えを用いたか等、考えの視点やよさを追究する指導を行う。

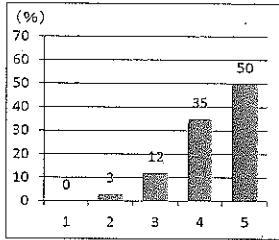
【別紙様式】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

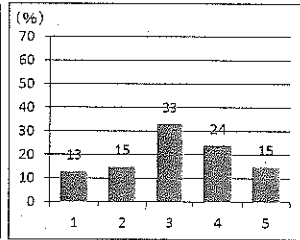
伊仙町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

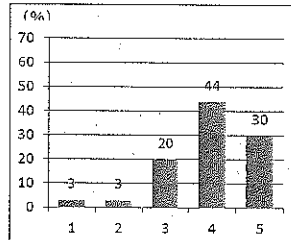


〔国語B〕

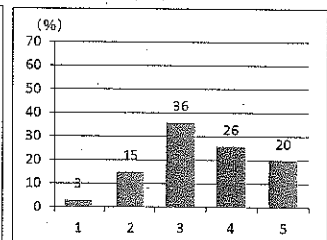


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



〈課題〉

分布課題

- 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は85%であるが、B問題では39%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。

領域課題

- A問題においては、課題であった「話す・聞く」領域は改善しているが、俳句の情景を考えたり、「対象」など同音異義語の漢字を書いたりするなど、言語に関する知識・理解・技能に課題がある。
- B問題においては、昨年度より差が縮まってきているが、目的に応じて文章全体の構成を考えるといった「書く能力」、登場人物の相互関係や心情、場面について描写を考えたり、自分の考えを広げたり深めたりといった「読む能力」に課題がある傾向が続いている。

無解答率課題

- 無解答率は、A・B問題ともに昨年度より改善されているが、後半の問題ほど高まる傾向は続いている。

〈課題〉

分布課題

- 5段階の分布状況について、A問題においては74%が4、5段階である。B問題に関しては、46%が4、5段階となっている。A問題は、上位層をさらに増やす必要がある。国語Bの2、3段階を一層伸ばしていく必要がある。

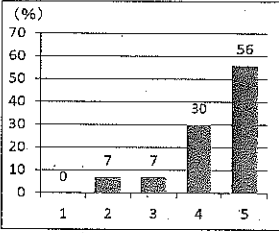
領域課題

- A問題においては、諺や慣用語の意味を捉える問題、古文の文中の「あやうし」の意味を答える問題など言語についての知識・理解・技能に課題がある。
- B問題においては、目的に応じて資料を効果的に活用して話す、話の論理的な構成や展開などに注意して聞く「話す・聞く能力」、必要な情報を収集するためのアンケートを構想・書き表すといった、「書く能力」に課題がある。

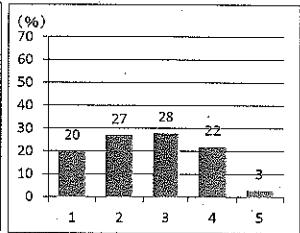
無解答率課題

- 無解答率は、A・B問題ともに後半になるほど高くなる傾向が強く、全体的に昨年度より高くなっている。

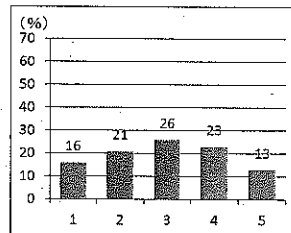
〔算数A〕



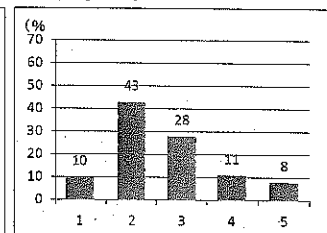
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

分布課題

- 5段階の分布状況については、A問題においては86%が4、5段階であることに対して、B問題においては、4、5段階の比重が25%となっている。基礎基本の定着が図られている反面、基礎基本を活用する力に課題がある。

領域課題

- A問題においては、「数と計算」の領域の乗数を整数に置き換えて解く「乗法の性質の理解」、「数量関係」の領域の表から情報を基に解を出す「表からの情報の読み取り」に課題がある。
- B問題においては、特に「数学的な考え方」を問う問題に課題がある。「数と計算」では、解を求めるために、文章を読み、必要な数値を示す表と照応して立式計算する問題、「数量関係」では、与えられた情報から基にする量と比べられる量の関係を捉え図を基に解を導き出す問題に課題がある。

無解答率課題

- 無解答率は、昨年度に比べA問題は確実に減ってきているが、B問題については、無解答率が20%を超える問題が、3問あることから、課題といえる。

〈課題〉

分布課題

- 5段階の分布状況から、A問題においては3段階が中央値となっているが他の段階と大きな差はない。また、1、2段階が4、5段階が同じ程度いる。B問題は、1、2段階が約53%と過半数を越え大きな課題である。

領域課題

- A問題においては、「数と式」ではaを用いて数量の関係を文字式にする、連立二元一次方程式を解く、「図形」では、円柱の体積を求める、「関数」では2つの数量の変化についてグラフを基に読み取るなど、数学的な技能の領域が大きく低い。
- B問題においては、「関数」では与えられた式からα変域に対応するβ変域を求める数学的スキルを要する問題、「図形」では2つの角の大きさが等しいことを合同を利用して証明する数学的な考え方を要する問題が低い。

無解答率課題

- 無解答率の中には、20%を超えるものも複数ある。全体的に高い傾向が続いており、対策が必要である。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱い、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各校で取り組ませるとともに、教育委員会部局として各種施策を実施していく。

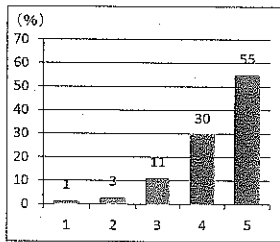
共通実践事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業充実の3ポイント(「目標の明確化」「山場の工夫」「確かな見届け」)を確実に満たす授業づくりを継続する。 学力向上アクションプランの見直しとプランを基にした校内研究授業の授業研究を確実に行う。 町学力向上推進協議会の重点「問題解決的めあての設定とまとめの整理」、振り返り活動を充実させる。(A問題の基礎的・基本的な理解・知識、技能を高める必要から)「良問に学ぶ日」の設置、充実を図るとともに、「学力向上Webシステム」問題の繰り返し活用を図る。(B問題に慣れる必要性や無解答率の低下の必要性から)
国語科重点	<ul style="list-style-type: none"> 漢字力向上及び俳句、詩の学習の充実 家庭学習の充実を通じた読書習慣の確立(長文読解の土力の育成) 授業で身に付ける学習内容の明確化とふさわしい言語活動を用いた、習得と活用の授業づくり 主体的・対話的で深い学びの展開に資する思考力を使う「学び合い」活動の実現
算数科重点	<ul style="list-style-type: none"> 提示された事象や過去の学習経験との対比から課題を明確にもたせられ、かつコンパクトな導入 授業後半の10分間における習熟の時間の位置付けと個に応じた指導の充実 図や表、グラフの表す意味を着実に読み取る力の育成 読み取ったことを基に自分の考えを表現したり、証明したりする力の育成
その他	<ul style="list-style-type: none"> 町主催研修会の運営体制の見直しと学校・地域・家庭・行政が責任を明確にし取り組む体制づくり 町学力向上推進協議会の運営体制の見直しを行う。(指導力向上に向けた町内研究会の枠組み・運営の仕方についての見直し) H29年度研究指定校「小学校国語、中学校キャリア教育」の公開授業を通じた力をつける授業モデルの提示する。 学力の現状や作成中の伊仙っ子5か条(案)を町民に広報し、家庭教育力の向上を図る。 ICT整備の5年計画(案)の策定と実施を通じた現場の教育機器の充実を図り、業務改善と指導力向上を図る。 授業づくり支援の一環として伊仙町授業構想支援プログラム(案)を実施する。

【別紙様式】

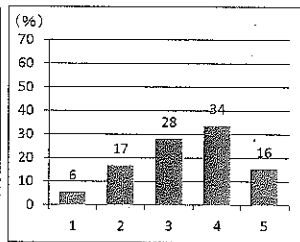
平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

和泊町教育委員会

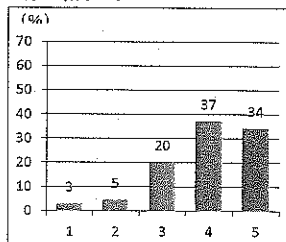
【小学校】
〔国語A〕



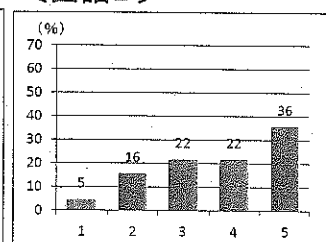
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



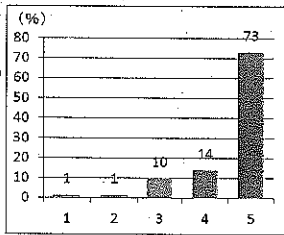
〈課題〉

・5段階での分布状況からA問題4, 5段階は8割を超えているが, B問題では5割程度である。全体的に基礎・基本は身に付いているが活用する力には課題が残る。
・物語を読み, 具体的な記述を根拠にして, 自分の考えをまとめ, 記述する設問の正答率が低く, 無解答率も高かった。設問全体では, 記述式の正答率が低く, 書く力に課題が見られる。

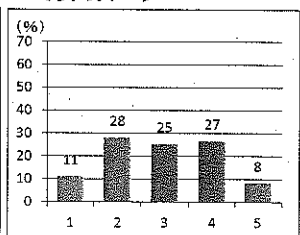
〈課題〉

・5段階の分布状況から, A問題では4, 5段階が7割を超えているが, B問題では上位層の伸び悩みが見られる。
・設問ごとに見ると, 比喻を用いた表現や場に応じた適切な言葉の使い方に課題が見られる。また, 問いに対して文中から必要な情報を選択したり, いくつかの情報を整理して, 作文したりする力が不十分である。
・語句の意味を理解して, 文脈や場面に応じて使い分ける力に課題が見られる。

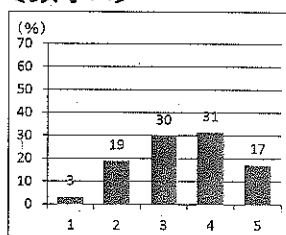
〔算数A〕



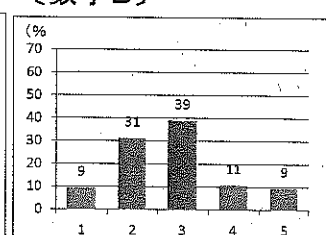
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階での分布状況から, A問題では4, 5段階が85%を超えているが, B問題では1, 2段階が全体の3分の1となっている。上位層の伸び悩みと下位層の多いことが課題である。
・設問で見ると記述式がいずれも正答率が低く, 数式と表・グラフとを関連付けて答えを導き出したり, 規準量と比較量との関係性を考えたりする力, 身近な事象の中から算数・数学的な関係を見つける力が不足していると考えられる。

〈課題〉

・5段階での分布状況から, A問題では全体的に中位層から下位層が多く, 基礎・基本の習熟が十分でない状況が見られる。B問題については, 下位層だけでも4割を占め, 活用力不足が顕著である。
・設問で見ると, 長さや面積との関係, グラフと数式との関係, 資料の読み取りなどが課題である。B問題においては理由や考えを説明したり証明したりする設問の正答率がいずれも低く, 与えられた情報から必要なものを取捨選択し, 論理的に考える力に課題がある。

【改善策】

今後, 以下に示す事項について, 本町の学力向上施策の重点として取り組んでいく。
○ 授業の3ポイントが確実に実践され, 毎時の授業に対して授業者が自己点検し, 改善を図る。
○ 授業者が「よい授業」のイメージをもち, 授業を展開するとともに, 「一人一研究授業」を通して, 互いに授業力を高めていく。
○ 課題の見られる設問については, 学力向上支援Webシステムを活用して, 児童生徒自らに変容(成長)を感じ, 学習意欲を高められるようにする。
以下の事項については, 管理職研修会や各校の研究授業, 参観の際に, 授業改善のポイントとして継続的に指導助言していく。
〔小学校〕(国語科) 自分の考えを書く際に, キーワードを用いて事実と根拠を踏まえて書く活動の充実を図る。
(算数科) 図表やグラフなどから必要な情報を取り出し, 比較したり, 関連付けたりして答えを導き出す活動
〔中学校〕(国語科) 文書を書く目的や読む目的, 話し合いの視点の確認など, 活動に際して生徒に目的意識をもたせて取り組む。
(数学科) 問題の意味を正しく理解し, 数学的な表現や図表, グラフを用いて, 筋道を立てて説明することのよさを味わうことのできる学び合いの充実

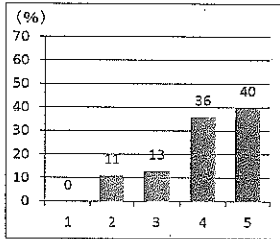
【別紙様式】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

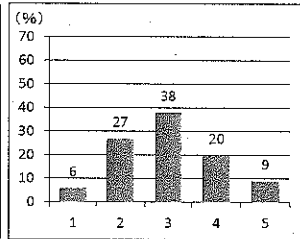
知名町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

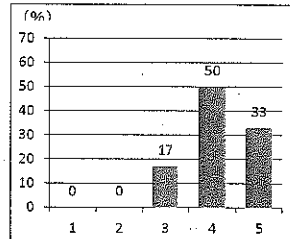


〔国語B〕

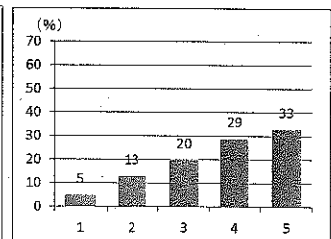


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



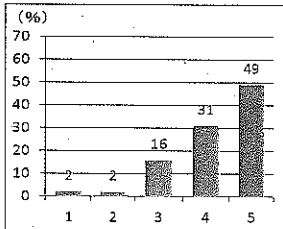
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は76%であるが、B問題では29%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は不十分である。
- ・ 記述式の問題ができていないことから、自分の考えを筋道立てて表現することに課題がある。

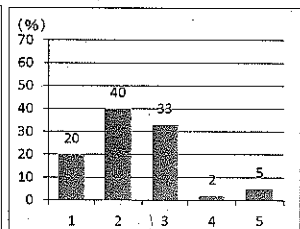
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題では中間層が多く、B問題では散らばりが見られる。上位層をどのように伸ばしていくかという課題とともに、個に応じた指導の必要性もある。
- ・ B問題では無解答率も高いので、文章を読み取る力を付けさせると同時に、書くことへの抵抗をなくす指導も必要である。

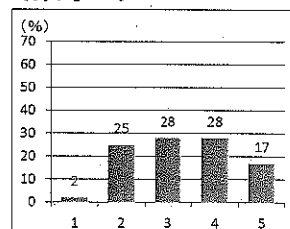
〔算数A〕



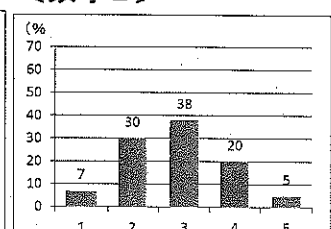
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は80%であるが、B問題では7%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は不十分である。
- ・ 特に図形やグラフ等の問題の正答率が低く、数学的な見方・考え方を育てていくことが課題である。

〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題は中間層が、B問題は低、中間層が多く、ともに上位層が少ない。上位層をどのように伸ばしていくかということが課題である。
- ・ A問題・B問題ともに点数のばらつきが大きいことから、個に応じた指導や支援が必要である。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 「授業充実の3ポイント」を踏まえた質の高い授業の実践のため、各学校の校内研修や公開授業を通して、授業づくりの支援や指導助言を行う。
 - 児童生徒の読み取る力や表現する力を育成するために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用するように、各学校へ指導を行う。
 - 各学校の作成した「学力向上アクションプラン」に基づいた取組の充実が図られているか、見届けまで確実に進行。
- また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科) 自分の考えを筋道立てて表現できるように、ノートに書かせ、友達に伝える活動を行う。
 - (算数科) 授業の山場では、意見交流を通して、考えが深められるような活動・発問等を行う。
 - 〔中学校〕(国語科) 長文から目的に応じた情報を取り出し、与えられた条件の中で表現する活動を行う。
 - (数学科) 主体的に課題解決に取り組む態度の育成と言語活動を通して、互いの考えを深められる活動を取り入れる。

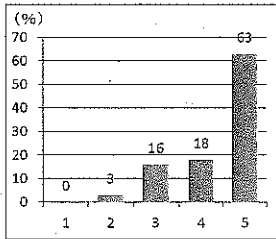
【別紙様式】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

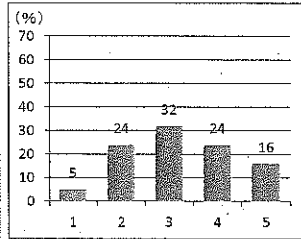
与論町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

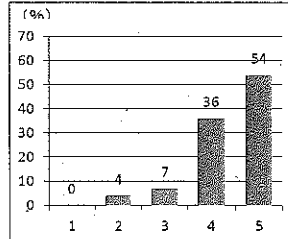


〔国語B〕

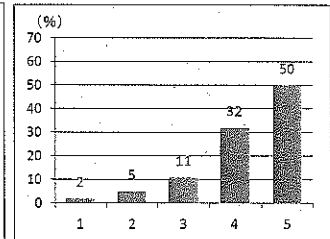


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



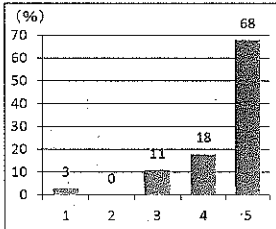
〈課題〉

- ・ A問題では5段階の63%が最も多くなっているが、B問題では2～4段階の人数が多くなっている。
- ・ 全国を下回る問題の中に、漢字が3問含まれている。
- ・ 問題を解く時間の不足を感じた児童が多かった。
- ・ 記述式問題で、無解答の児童が20%の問題があった。

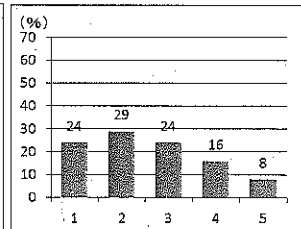
〈課題〉

- ・ A問題の結果から、下位層は比較的少ないが、正解数において全国は29、30問がピークなのに対し、本町は25、26問がピークとなっている。
- ・ 全国を下回っている問題の中に、漢字や語句の活用を問う問題が6問含まれている。
- ・ 自分の考えや根拠を書く問題の正答率が低い。

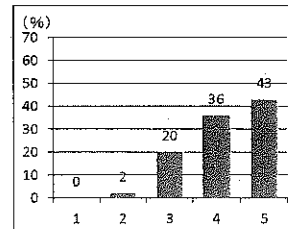
〔算数A〕



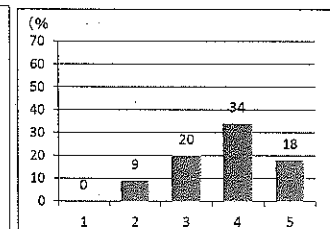
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・ A問題では5段階の68%が最も多くなっているが、B問題では5段階の割合が最も少ない。
- ・ 図形の底辺と面積の関係や、立方体の構成など図形領域の正答率が全国を下回っている。

〈課題〉

- ・ B問題では、2段階が9%となっている。平行四辺形の根拠や長方形の面積の説明、三角形の合同など小学校の学習内容を利用して解く問題の正答率が全国以下である。
- ・ 「説明」や「証明」といった自分の考えを数学的に書く問題の正答率が低い。

【改善策】

【与論町の学力向上の施策】

- 子供たちが「主体的、対話的で深い学び」を実感できる授業改善を図るために、小中高の垣根を越えた授業参観を更に推進する。
- 生徒指導面だけでなく、学習内容面における小中連携を深める。
- 家庭学習や自主学習を推進し、学びに向かう力を身に付けさせるために、学びの場(学ぶ方法)の選択肢を増やしていく。

【小中学校共通の徹底事項】

- ・ 単位時間内での「振り返り」と「習熟」の位置付け(教師の意識付け)を確実にする。
- ・ 個別の学カシートなどを作成し、経年変化や領域毎の特徴などをつかみ、指導に生かす。

【小学校での徹底事項】

- ・ 漢字の定着の徹底。他者から与えられた資料を使って課題解決に取り組む活動の充実をする。
- ・ 図形の要素や根拠などを説明する活動を充実させる。

【中学校での徹底事項】

- ・ 漢字の確実な定着と語句の活用をする。様々な資料の中から意図に合う資料を選択して、文を構成し説明する活動の充実をする。
- ・ 学習内容を他者に説明(証明)する活動の充実をする。